

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

第2章 セキュリティ

本ワークステーションで使用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

第3章 ハードウェア

本ワークステーションをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

第4章 増設

本ワークステーションに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器について、基本的な取り扱い方などを説明しています。

第5章 BIOS

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本ワークステーションのデータを守るためにパスワードを設定する方法について説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

第6章 技術情報

本ワークステーションの仕様などを記載しています。

目次

本書をお読みになる前に	5
本書の表記	5
第1章 各部名称	
1 各部の名称と働き	10
ワークステーション本体前面	10
ワークステーション本体背面	13
ワークステーション本体内部	15
メインボード	16
第2章 セキュリティ	
1 セキュリティについて	18
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	19
コンピュータウイルス	19
通信データの暗号化	19
ファイアウォール	19
Windows やアプリケーションのアップデート	20
3 不正使用からのセキュリティ	21
Windows のパスワード	21
管理者権限とユーザー アカウント	21
アクセス権と暗号化	21
BIOS のパスワード	22
スマートカードリーダ／ライタ（カスタムメイドオプション）	22
4 ワークステーションの盗難防止	23
5 ワークステーション本体廃棄時のセキュリティ	24
ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意	24
ハードディスクのデータ消去サービスについて	25
第3章 ハードウェア	
1 マウスについて	28
マウスの使い方	28
USB マウス（光学式）について	30
2 キーボードについて	31
3 CD／DVDについて	33
取り扱い上の注意	33
使用できるディスク	35
DVD-RAM への書き込み・書き換えについて	39
ディスクをセットする／取り出す	41

4 フロッピーディスクについて	43
取り扱い上の注意	43
フロッピーディスクをセットする／取り出す	43
5 ハードディスクについて	45
注意事項	45
6 ハードウェアのお手入れ	46
ワークステーション本体のお手入れ	46
マウスのお手入れ	46
キーボードのお手入れ	47
フロッピーディスクドライブのお手入れ	48
7 筐体のセキュリティ	49
ワークステーション本体前面の施錠方法（カスタムメイドオプション）	49
ワークステーション本体背面の施錠方法	50

第4章 増設

1 周辺機器を取り付ける前に	52
取り扱い上の注意	52
2 本体カバーを取り外す	54
本体カバーの取り外し方	54
3 メモリを取り付ける	55
メモリの取り付け場所	56
取り付けられるメモリ	56
メモリを取り付ける	57
4 拡張カードを取り付ける	62
拡張カードの取り付け場所	63
取り付けられる拡張カード	63
拡張カードを取り付ける	64

第5章 BIOS

1 BIOS セットアップとは	68
2 BIOS セットアップの操作のしかた	69
BIOS セットアップを起動する	69
各キーの役割	70
設定値を変更する	70
BIOS セットアップを終了する	71
Boot Menu の操作方法	71
3 メニュー詳細	72
Main メニュー	72
Advanced メニュー	74
Security メニュー	80
Power メニュー	83
Boot メニュー	85
Exit メニュー	88

4 BIOS のパスワード機能を使う	89
パスワードの種類	89
パスワードを忘れると	89
パスワードを設定する	90
パスワードを変更／削除する	92
第 6 章 技術情報	
1 仕様一覧	94
本体仕様	94
省エネ法に基づくエネルギー消費効率	96
LAN 機能	96
表示機能	97
2 コネクタ仕様	98
索引	105

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようにになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

diskcopy a: a:
↑ ↑

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、「CD-ROM ドライブ」で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

例：[CD-ROM ドライブ]:\\$setup.exe

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作
↓
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

また、本文中の操作手順において、操作手順の類似しているものは、あわせて記述しています。

例：「スタート」ボタン→「(すべての)プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS 設定の表記

本文中の BIOS 設定手順において、各メニュー やサブメニュー または項目を、「-」(ハイフン)でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」(コロン)の後に記述する場合があります。

例：「Power」メニューの「ACPI Suspend State」の項目を「S3 State」に設定します。
↓
「Power」 - 「ACPI Suspend State」 : S3 State

■ カスタムメイドオプションについて

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドで選択のオプションを取り付けている場合、メモリ容量やハードディスク容量などの記載が異なります。ご了承ください。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの機種、またはOS以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記		
CELSIUS J330	J330	本ワークステーション ワークステーション本体	
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	Windows XP	Windows ^注
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000		
Microsoft® Windows® XP 日本語版 Service Pack	SP		
Microsoft® Windows® 2000 日本語版 Service Pack			
Norton AntiVirus™ 2004	AntiVirus		
Sonic RecordNow DX	RecordNow		
Adobe® Reader® 6.0	Adobe Reader		
ATI RADEON™ X300 SE PCI-Express 64MB DDR DVI-I ATX	RADEON X300 SE		
ATI FireGL™ V3200 PCI-Express 128MB DDR DVI-I/DVI-I ATX	FireGL V3200		

注：Windows XP/2000 のように併記する場合があります。

■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットのURLアドレスは2004年8月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください(→『取扱説明書』)。

Microsoft、Windows、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

ATI、RADEON、FireGL は ATI Technologies Inc. の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2004
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

第1章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き 10

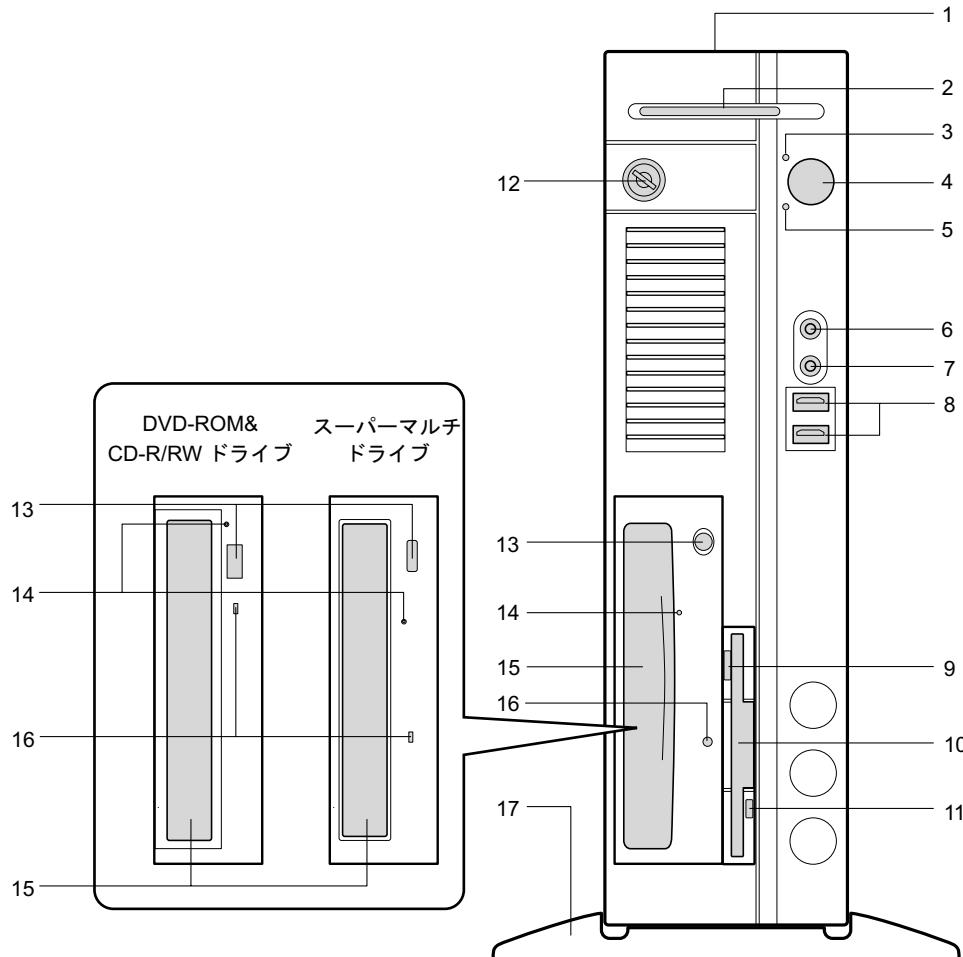
1 各部の名称と働き

ここでは、ワークステーション本体、メインボードの各部の名称と働きを説明します。

POINT

- ▶ これ以降の記述については、縦置きを前提としています。横置きにする場合は、読み替えてください。

ワークステーション本体前面



1 通風孔

ワークステーション本体内部の熱を外部に逃すための開孔部があります。物を載せるなどしてふさがないようにご注意ください。横置きする場合は、通風孔のある面を、壁などから 20cm 以上離して設置してください。

2 スマートカードベイ

カスタムメイドで選択したスマートカードリーダ／ライタが取り付けられています。

3 電源ランプ

ワークステーション本体の電源の状態を表しています。

緑色に点灯しているときは、電源が入っています。

オレンジ色に点灯しているときは、ACPI のスタンバイモード状態（省電力状態）です。

ワークステーション本体の電源が入っていないときは、消灯しています。

4 電源ボタン

次の場合に押します。

- ・ワークステーション本体の電源を入れるとき
- ・スタンバイ状態（省電力状態）にするとき
- ・スタンバイ状態から復帰（レジューム）するとき

5 ディスクアクセスランプ

ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクや CD-ROM からデータを読み込んでいるとき、音楽 CD を再生しているときに点滅します。また、CD-ROM ドライブによっては、CD にアクセスしているときに点滅する場合があります。

6 マイク端子 ()

市販のコンデンサマイクを接続します。

7 ヘッドホンアウト端子 ()

市販のヘッドホンなどのオーディオ機器を接続します。

スピーカーを直接接続する場合は、アンプ機能内蔵のものをお使いください。

ヘッドホンアウト端子にヘッドホンを接続している間は、ラインアウト端子からは、音が出ません。

8 USB コネクタ ()

USB 規格の周辺機器を接続します。USB2.0 に準拠しています。

9 フロッピーディスク取り出しボタン

フロッピーディスクを取り出すときに押します。

フロッピーディスクアクセスランプが点滅しているときは、押さないでください。

10 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したりします。

11 フロッピーディスクアクセスランプ

フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したりしているときに点灯します。

12 鍵穴

カスタムメイドで本体カバーキー追加を選択している場合、添付の本体カバーキーで、本体カバーを施錠します。

 **重要**

- ▶ 施錠する場合は、お客様の責任で、本体カバーキーを紛失しないようにしてください。
- ▶ 本体カバーキーを紛失した場合は、引取修理による本体カバーの交換が必要となります。
「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
なお、保証期間にかかわらず、鍵の紛失による本体カバーの交換は有償となります。
- ▶ 本体カバーキーを紛失した場合は、訪問修理の際も即日修理ができません。
引取修理になりますので、あらかじめご了承ください。

13 CD 取り出しボタン

CD-ROM や音楽 CD をセットするときや取り出すときに押します。ワークステーション本体の電源が入っているときにお使いになれます。

CD アクセスランプが点滅しているときは、押さないでください。

14 ディスク取り出し穴

CD 取り出しボタンを押してもトレーが出ない場合に使用します。

電源を切断した後、クリップなどの細いワイヤをディスク取り出し穴に挿入するとトレーが出てきます。媒体を取り出した後、トレーを静かに元の位置に戻します。緊急時以外は使用しないでください。

15 CD-ROM ドライブ

CD-ROM のデータやプログラムを読み出したり、音楽 CD を再生したりします。

カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが取り付けられています。

- ・ DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ
- ・ スーパーマルチドライブ

16 CD アクセスランプ

CD-ROM からデータを読み込んでいるときや音楽 CD を再生しているときに点滅します。

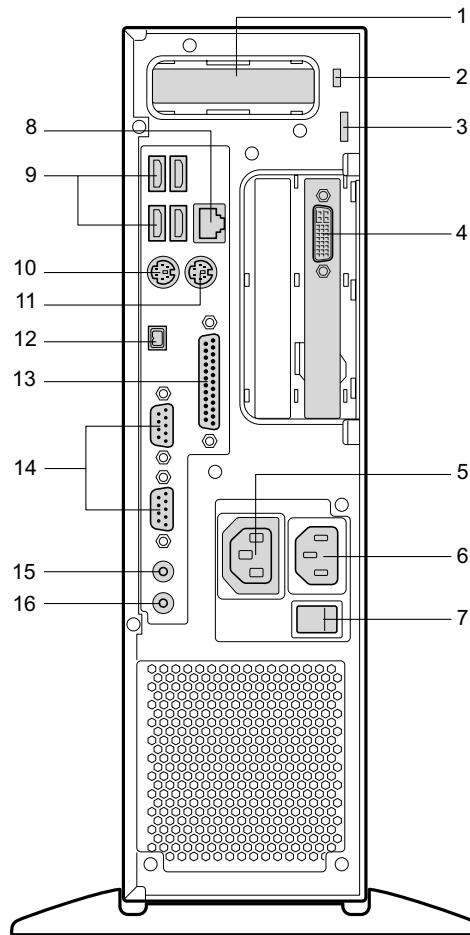
17 フット

本ワークステーションをお使いになるときに取り付ける台座です。

縦置きするときには、転倒防止となります。

なお、マウスやキーボードのケーブルは、フットの溝に通してまとめることができます
(→『取扱説明書』)。

ワークステーション本体背面



1 拡張カードスロット

32bit/33MHz PCI カード（Low Profile 対応）を取り付けられます。

2 盗難防止用ロック

市販の盗難防止用ケーブルを接続します。

POINT

- ▶ 盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。盗難防止用ケーブルは、次のものを購入してください。他の類似のケーブルは取り付けられない場合があります。

商品名：SLIM MICROS AVER

商品番号：0522011

（富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375）

3 南京錠用鍵穴

市販の鍵を取り付けます。

4 DVI-I コネクタ

ディスプレイを接続します。DVI-VGA 変換ケーブルまたはデジタルディスプレイのディスプレイケーブルが使用できます。

カスタムメイドの選択によっては、コネクタの種類が異なります。

5 アウトレット

ディスプレイの電源ケーブルを接続します。

6 インレット

電源ケーブルを接続します。

7 メインスイッチ

ワークステーション本体の電源を完全に切る場合に「オフ」にします。「|」側が「オン」で「○」側が「オフ」です。

「オフ」にすると、電源ボタンを押しても、ワークステーション本体の電源は入りません。
通常は「オン」のままお使いください。

ただし、長期間お使いにならない場合は、「オフ」にしてください（→『取扱説明書』）。

8 LAN コネクタ (埠)

非シールド・ツイストペア (UTP) ケーブルを接続します。

1000Mbps でお使いになる場合、エンハンスドカテゴリ 5 のケーブルが必要です。

100Mbps でお使いになる場合、カテゴリ 5 のケーブルが必要です。



LED の意味は、次のとおりです。

1000Mbps で LINK を確立：下部 LED 緑色点灯、上部 LED 黄色点灯

100Mbps で LINK を確立：下部 LED 緑色点灯、上部 LED 緑色点灯

10Mbps で LINK を確立：下部 LED 緑色点灯、上部 LED 消灯

データ転送中：下部 LED 緑色点滅

9 USB コネクタ (□)

USB 規格の周辺機器を接続します。USB2.0 に準拠しています。

10 キーボードコネクタ (■)

キーボードを接続します。

11 マウスコネクタ (△)

マウスを接続します。

12 IEEE1394 端子 ([394])

IEEE1394 規格の周辺機器を接続します。

13 パラレルコネクタ (□)

プリンタやスキャナなどを接続します。

14シリアルコネクタ (□□)

RS-232C 規格に対応した機器を接続します。

15 ラインアウト端子 (□□)

サウンド出力用端子です。オーディオ機器の入力端子と接続します。

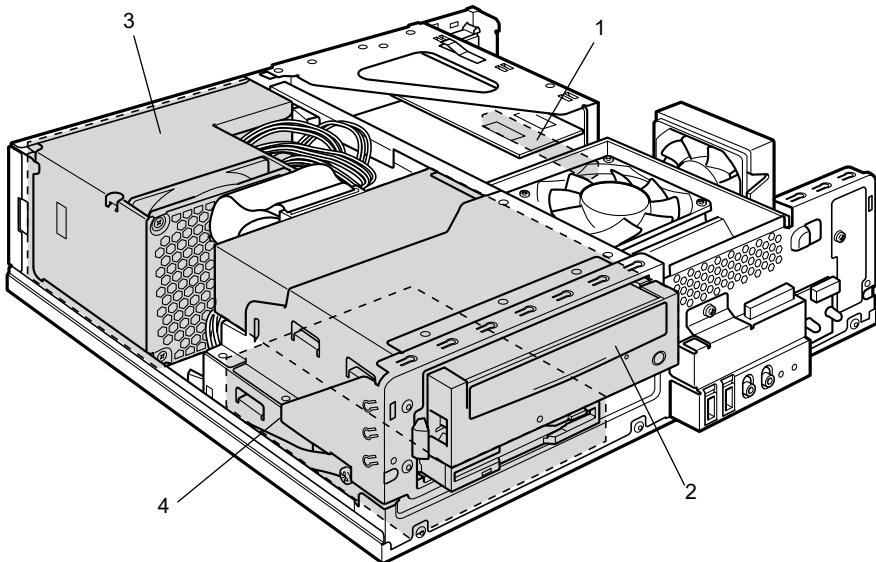
スピーカーを直接接続する場合は、アンプ機能内蔵のものをお使いください。

なお、ヘッドホンアウト端子にヘッドホンを接続している場合、ラインアウト端子からは音が出ません。

16 ラインイン端子 (□□)

サウンド入力用端子です。オーディオ機器の出力端子と接続します。

ワークステーション本体内部



1 拡張カードスロット

32bit/33MHz PCI カード（Low Profile 対応）を取り付けられます。

2 5インチファイルベイ

CD-ROM ドライブが取り付けられています。

カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが取り付けられています。

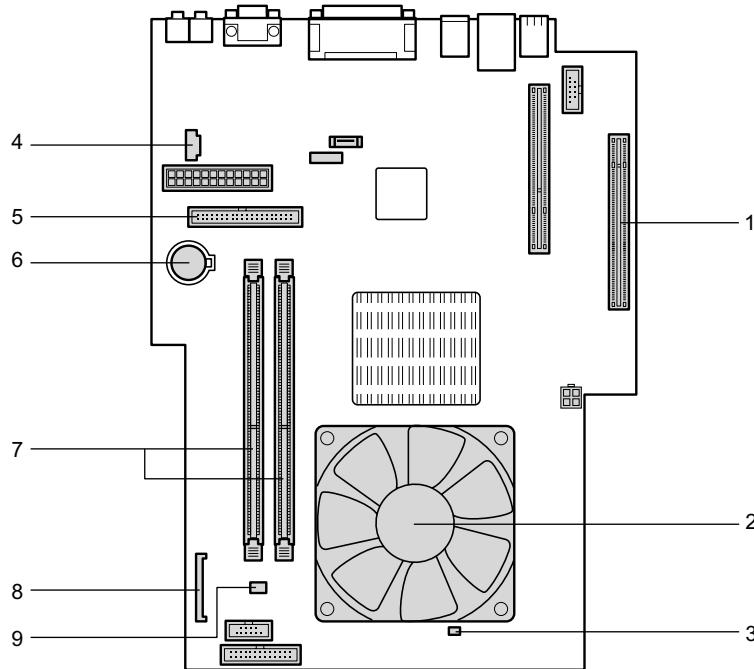
- ・DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ
- ・スーパーマルチ ドライブ

3 電源ユニット

4 3.5インチファイルベイ

内蔵ハードディスクが取り付けられています。

メインボード



1 拡張カードスロット

32bit/33MHz PCI カード (Low Profile 対応) を取り付けられます。

2 CPU (ヒートシンクの下にあります)

3 外部温度センサー (Ext. Sensor)

4 CD IN コネクタ (黒)

CD-ROM ドライブからの AUDIO ケーブルが接続されています。

5 パラレル ATA コネクタ

標準のハードディスクと CD-ROM ドライブが接続されているケーブルが接続されています。

6 内蔵バッテリ

本ワークステーションの時計機能と BIOS セットアップで設定した設定値を保存するためのバッテリです。標準の使用状態 (1 日約 8 時間) で約 5 年間お使いになれます。

7 DIMM スロット

メモリが取り付けられています。

図中右から、CH A、CH B と並んでいます。CH A には、標準のメモリが搭載されています。

8 フロッピーコネクタ

フロッピーディスクドライブと接続されているケーブルが接続されています。

9 内部温度センサー (Int. Sensor)

第2章

セキュリティ

本ワークステーションで使用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

1 セキュリティについて	18
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	19
3 不正使用からのセキュリティ	21
4 ワークステーションの盗難防止	23
5 ワークステーション本体廃棄時のセキュリティ	24

1 セキュリティについて

コンピュータの使用増加に伴って、コンピュータウイルスによるシステム破壊、情報の漏えい、不正使用、盗難などの危険も増えてきています。これらの危険から大切な情報を守るために、本ワークステーションではさまざまなセキュリティ機能が用意されています。

ここでは、どんな危険があるか、またトラブルに備えてやっておくことについて、簡単に説明しています。

重要

- ▶ セキュリティ機能は完全な本人認識照合を保証するものではありません。当社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切の責任を負いかねます。
- セキュリティは、本ワークステーションを使用している方が責任をもって行ってください。
- ▶ セキュリティは一度行えば安心できるものではありません。ワークステーションを使用している方が日ごろから関心をもって、最善のセキュリティ環境にしておくことが必要です。

■ コンピュータウイルス

コンピュータにトラブルをひき起こすことを目的として作られたプログラムです。インターネットや電子メールなどを通じてワークステーションに感染することにより、ワークステーションのシステムやデータの破壊、情報の漏えいといった被害を受けます。

■ 情報の漏えい

ネットワークなどをとおしてコンピュータに不正に侵入され、重要なデータを流出されたり、破壊されたりすることがあります。また、特殊なソフトウェアを使用することにより、廃棄したワークステーションから不正に情報が抜き出されることもあります。

POINT

- ▶ フロッピーディスクや CD-R/RW ディスク、DVD-R/RW/RAM ディスク、MO ディスクなどの外部記憶媒体を廃棄する場合も、セキュリティに気を付けてください。ディスクの読み取り部に傷をつけたり、データを完全に消去したりすることをお勧めします。

■ 不正使用

利用する権限のないコンピュータを使用することです。パスワードを設定するなどの対策で防ぐこともできますが、容易に想像できるパスワードを使用したりすると、不正に使用される危険性が高くなります。

■ 盗難

不正にコンピュータが持ち出され、保存しているデータが不正に使用されることがあります。

■ トラブルに備えて

コンピュータのセキュリティには、これで完全というものはありません。日ごろからデータのバックアップをとったり、ソフトウェアを最新のものにアップデートしたりするなどの対策をしておけば、被害を少なくすることができます。

詳しくは、『ソフトウェアガイド』の「トラブルシューティング」—「トラブルに備えて」、および『ソフトウェアガイド』の「ソフトウェア」—「Windows Updateについて」をご覧ください。

2 ネットワーク接続時のセキュリティ

インターネットや電子メールなどのネットワークを利用して、情報を伝達することが多くなりました。そのため、コンピュータウイルスへの感染や、ワークステーション内の情報が漏えいする危険性も高まっています。

ここでは、ネットワークに接続しているワークステーションを守るためにセキュリティ機能について紹介します。

コンピュータウイルス

コンピュータウイルスは、インターネットや電子メールなどを通じてワークステーションに感染し、データを破壊したりワークステーションを起動できなくしたりします。また、ウイルスに感染したワークステーションを使用することによって、無意識のうちに他のコンピュータにウイルスを広めてしまうこともあります。

本ワークステーションには、ウイルスを発見するためのソフトウェアとして「AntiVirus」が添付されています。AntiVirus は、ウイルス定義ファイルを使用して、ウイルスの侵入と感染をチェックすることができます。

詳しくは、『ソフトウェアガイド』の「トラブルシューティング」－「コンピュータウイルス対策」をご覧ください。

通信データの暗号化

重要なデータをネットワーク経由でやり取りしている場合、ネットワーク上のデータから情報の漏えいを招くことがあります。そのため、データを暗号化して送信するが増えています。

Windows XP Professional や Windows 2000 には、データを暗号化するための機能が標準で搭載されています。ここでは暗号化機能の 1 つとして、「IPSec (Internet Protocol Security)」を紹介します。

IPSec は、TCP/IP プロトコルで通信を行っている場合、アプリケーションに依存することなくデータを暗号化することができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

ファイアウォール

ワークステーションを外部のネットワークに接続している場合、外部のネットワークから不正にアクセスして情報を改ざんされることがあります。そのため、外部のネットワークと内部のネットワークの間にファイアウォールと呼ばれる壁を作り、外部からのアクセスをコントロールすることができます。

Windows XP では、インターネット接続ファイアウォール (ICF) が標準で搭載されています。インターネット接続ファイアウォール (ICF) については、Windows のヘルプをご覧ください。

Windows やアプリケーションのアップデート

お使いの Windows やアプリケーションに脆弱性（セキュリティホール）と呼ばれる弱点が発見されることがあります。これらの脆弱性が悪用されると、コンピュータウイルスなどの悪意あるプログラムが作られる可能性があります。脆弱性をそのまま放置しておくと、お使いのワークステーションに悪意あるプログラムが侵入する危険性があります。

その対策として、システムやアプリケーションソフトを提供している各社が修正プログラムを無料で配布しています。新しい修正プログラムが発表されたときには、内容を確認の上、お使いのワークステーションに適用してください。

Windows では「Windows Update」でネットワークから最新の修正プログラムを入手できます。「Windows Update」の実行方法については、『ソフトウェアガイド』の「ソフトウェア」－「Windows Update について」をご覧ください。

3 不正使用からのセキュリティ

ワークステーションを使用する権限のない人が不正にワークステーションを使用して、データを破壊したり漏えいしたりする危険からワークステーションを守ることが必要になってきています。

ここでは、本ワークステーションで設定できるパスワードや機能などについて説明します。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、ワークステーションの安全性も高まります。

重 要

- ▶ ワークステーションの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ▶ パスワードを何かに書き留める際は、安全な場所に保管してください。また、数字だけではなく英数字や記号を入れたり、定期的に変更するなど、他人に知られないように気を付けてください。

Windows のパスワード

OS の起動時やレジューム時、スクリーンセーバーからの復帰時のパスワードを設定できます。複数のユーザーで 1 台のワークステーションを使用する場合、使用するユーザーによってパスワードを変更できます。

パスワードの設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。

管理者権限とユーザーアカウント

Windows XP や Windows 2000 では、管理者権限を持ったユーザーアカウントを作成できます。管理者は、他のユーザーアカウントのセットアップや管理などを行うことができます。管理者がワークステーションを使用するユーザーを管理することで、ワークステーションの安全性も高まります。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

アクセス権と暗号化

Windows XP や Windows 2000 では、ファイルシステムとして「NTFS」を使用すると次のようなことができます。

- フォルダやファイルへのアクセス権の設定
ユーザーまたはグループごとに権限を設定できるため、権限のないユーザーからのアクセスに対してファイルを保護することができます。
- フォルダやファイルの暗号化
不慮の事故でハードディスクを紛失しても、簡単にファイルの内容を判別できないように保護することができます。

アクセス権を設定したり暗号化することにより、権限のないユーザーから大切なデータを守ることができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

なお、ご購入時のファイルシステムの設定については、『ソフトウェアガイド』の「機能」－「ドライブ関連」をご覧ください。

BIOS のパスワード

ワークステーション起動時や BIOS セットアップ起動時のパスワードを設定できます。BIOS のパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、ワークステーションの設定が変更できなくなるなどの制限がつきます。

また、ワークステーションのハードディスク自体にパスワードを設定できます。ハードディスクにパスワードを設定しておくと、パスワードを知っている人以外はハードディスクに入っている情報が読み出せなくなります。

詳しくは、「BIOS」－「Security メニュー」(→ P.80) および「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.89) をご覧ください。

スマートカードリーダ／ライタ（カスタムメイドオプション）

ワークステーションの起動時や OS の起動時、アプリケーションの起動時などのパスワードを設定できます。スマートカードに ID やパスワードなどのセキュリティ情報を格納します。管理者用とユーザー用のパスワードを、1枚のカードに1つずつ設定できます。

ワークステーションを使用する場合は、ワークステーション本体にスマートカードをセットし、PIN（個人認証番号）を入力します。スマートカードをセットしないとセキュリティが解除できないため、ハードディスク内にセキュリティ情報を保存する場合に比べて、安全に使用できます。

スマートカードについては、『CELSIUS マニュアル』内の『スマートカードリーダ／ライタ追加取扱説明書』をご覧ください。

4 ワークステーションの盗難防止

ワークステーションの盗難という危険性があります。ワークステーションを鍵のかかる場所に設置または保管するなどの対策をとることもできますが、ワークステーション自体にも盗難防止用の機能が備えられています。

本ワークステーションには、次の3種類の機能があります。

- 本体カバーキー（カスタムメイドオプション）

添付の本体カバーキーで本体カバーを施錠できます。

重要

- ▶ 施錠する場合は、お客様の責任で、本体カバーキーを紛失しないようにしてください。
- ▶ 本体カバーキーを紛失した場合は、引取修理による本体カバーの交換が必要となります。「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
なお、保証期間にかかるわらず、鍵の紛失による本体カバーの交換は有償となります。
- ▶ 本体カバーキーを紛失した場合は、訪問修理の際も即日修理ができません。
引取修理になりますので、あらかじめご了承ください。

- 市販の鍵

ワークステーション本体背面のセキュリティ施錠金具に、市販の鍵を取り付けることができます。

これらの機能を使うと、本体カバーの開閉を制限できるため、ハードディスクなどの装置の盗難の危険性が減少します。

鍵の施錠方法については、「ハードウェア」－「筐体のセキュリティ」(→P.49)をご覧ください。

- 盗難防止用ロック

ワークステーション本体の盗難防止用ロックに、盗難防止用ケーブルを取り付けることができます。ケーブルの端を机や柱などに取り付けることで、ワークステーション本体の盗難の危険性が減少します。

盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。盗難防止用ケーブルは、次のものを購入してください。他の類似のケーブルは取り付けられない場合があります。

- ・商品名：SLIM MICROS AVER

- ・商品番号：0522011

(富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375)

盗難防止用ロックの場所については、「各部名称」－「ワークステーション本体背面」(→P.13)をご覧ください。

POINT

- ▶ 市販の鍵または盗難防止用ケーブルの鍵を紛失した場合は、ご購入元にご連絡ください。

5 ワークステーション本体廃棄時のセキュリティ

ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、コンピュータは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのコンピュータに入っているハードディスクという記憶装置には、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、ワークステーションを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- ・データを「ゴミ箱」に捨てる
- ・「削除」操作を行う
- ・「ゴミ箱を空にする」を使って消す
- ・ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ・ハードディスクをご購入時の状態に戻す

などの作業をするといますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にはデータが見えなくなっているだけという状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSからデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

ワークステーションの廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアやサービス（有料）を利用することをお勧めします。また、廃棄する場合は、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊することをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションなど）を削除することなくワークステーションを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

本ワークステーションには、ワークステーションの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の一つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除や初期化と違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、「ハードディスクデータ消去」で消去した場合でも、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。

「ハードディスクデータ消去」の使い方については、『ソフトウェアガイド』の「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」をご覧ください。

ハードディスクのデータ消去サービスについて

■ 法人・企業のお客様へ

弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ完全消去サービス」をご用意しております。

消去方法は、専用ソフトウェアによる「ソフト消去」と、消磁装置による「ハード消去」があります。

ソフト消去	弊社標準と定めている2回書き（ランダムデータ+0データ）から海外規格（NSA,DoD…）に対応
ハード消去	消磁装置による磁気破壊（媒体表面水平磁力10500ガウス）

消去証明として富士通が消去証明書を発行し消去済フォログラフシールを対象ディスクに貼付け、納品物とします。

詳しくは、ストレージ統合サービス（<http://storage-system.fujitsu.com/jp/service/>）をご覧ください。

お問い合わせ／お申し込み先メールアドレス：fbprj@support.fujitsu.com

Memo

第3章

ハードウェア

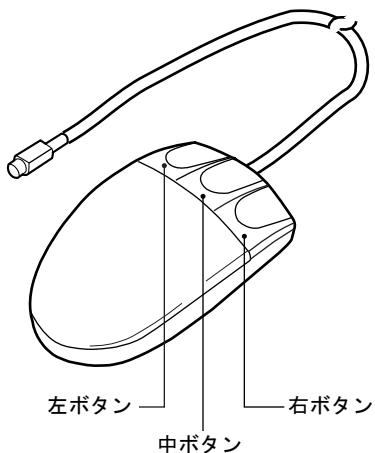
本ワークステーションをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

3

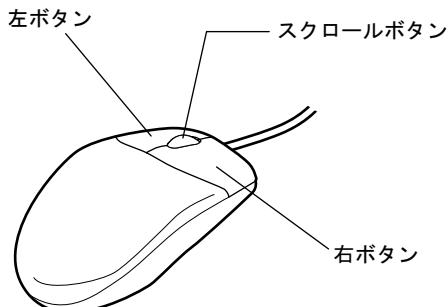
1 マウスについて	28
2 キーボードについて	31
3 CD／DVDについて	33
4 フロッピーディスクについて	43
5 ハードディスクについて	45
6 ハードウェアのお手入れ	46
7 筐体のセキュリティ	49

1 マウスについて

■ 3ボタンマウス



■ USBマウス（光学式）



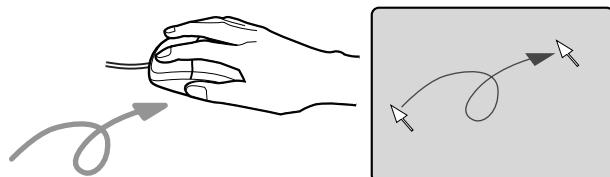
POINT

- ▶ マウスは、定期的にクリーニングしてください（→ P.46）。

マウスの使い方

■ マウスの動かし方

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、画面上の矢印（これを「マウスポインタ」といいます）が同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



■ ボタンの操作

● クリック

マウスの左ボタンを1回カチッと押します。

また、右ボタンをカチッと押すことを「右クリック」といいます。



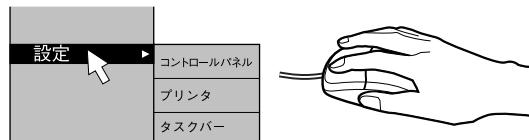
● ダブルクリック

マウスの左ボタンを2回連続してカチカチッと押します。



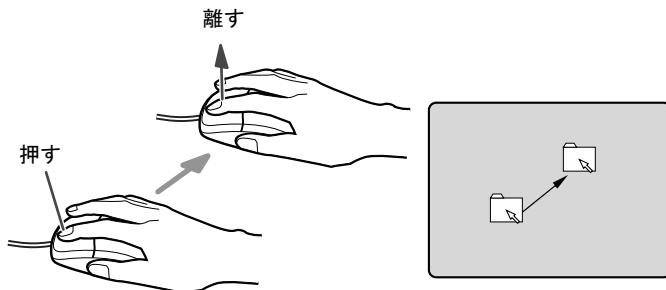
● ポイント

マウスポインタをメニューなどに合わせます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。



● ドラッグ

マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。



● スクロール（スクロールボタン付きのマウスのみ）

- ・スクロールボタンを前後に操作することで、ウィンドウ内の表示をスクロールさせることができます。また、第3のボタンとして、押して使うこともできます。

- ・スクロール機能は、対応したアプリケーションで使うことができます。

POINT

- ▶ 上記のボタン操作は、「マウスのプロパティ」ウィンドウで右利き用（主な機能に左側のボタンを使用）に設定した場合の操作です。
- ▶ 3ボタンマウスの場合、中ボタンは対応するアプリケーションで使用できます。

USB マウス（光学式）について

USB マウス（光学式）は、底面からの赤い光により照らし出されている陰影をオプティカル（光学）センサーで検知し、マウスの動きを判断しています。このため、机の上だけでなく、衣類の上や紙の上でも使用することができます。

◀ 重要

- ▶ オプティカル（光学）センサーについて
 - ・マウス底面から発せられている赤い光を直接見ると、眼に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
 - ・センサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
 - ・発光部分を他の用途に使用しないでください。

POINT

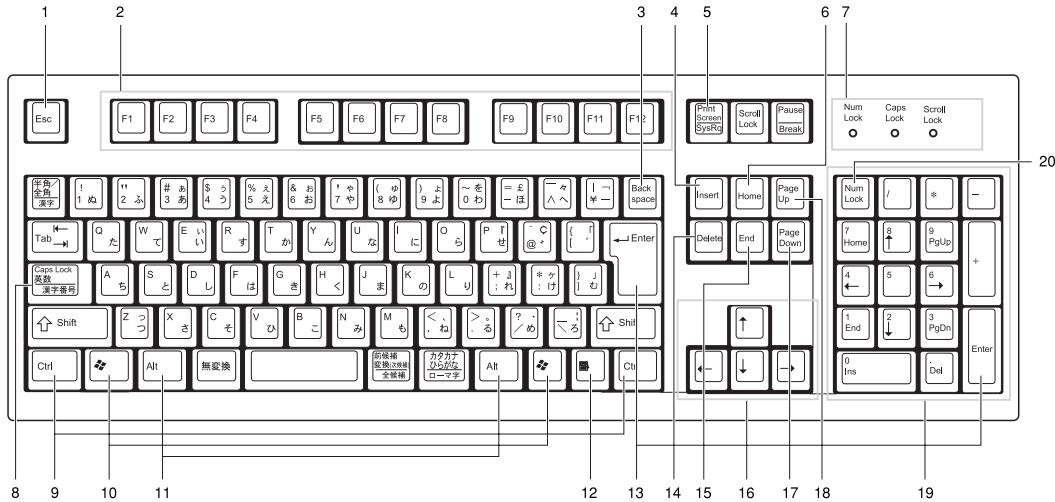
- ▶ USB マウス（光学式）は、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの（木目調など）
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- ▶ マウスパッドをお使いになる場合は、明るい色の無地のマウスパッドをお使いになることをお勧めします。
- ▶ USB マウス（光学式）は、非接触でマウスの動きを検知しているため、特にマウスパッドを必要としません。ただし、マウス本体は接触しているので、傷がつきやすい机やテーブルの上では、傷を防止するためにマウスパッドをお使いになることをお勧めします。

2 キーボードについて

キーボード（109日本語キーボード）のキーの役割を説明します。

POINT

- お使いになるOSやアプリケーションにより、キーの役割が変わることがあります。OSやアプリケーションのマニュアルをご覧ください。



1 Esc キー

アプリケーションの実行中の動作を取り消します。

2 F キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

3 Back space キー

カーソルを左へ移動し、文字を削除するときに押します。

4 Insert キー

文字の挿入／上書きの切り替えをするときに押します。

5 Print Screen キー

画面表示をクリップボードに取り込みます。

6 Home キー

カーソルを行の最初に一度に移動するときに押します。

【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最初に一度に移動します。

7 インジケーター

【Num Lock】キー、【Shift】+【Caps Lock 英数】キー、【Scroll Lock】キーを押すと点灯し、各キーが機能する状態になります。再び押すと消え、各キーの機能が解除されます。

8 Caps Lock 英数キー

アルファベットを入力するときに使います。

【Shift】+【Caps Lock 英数】キーで大文字／小文字を切り替えます。

9 Ctrl キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

10 Windows キー

「スタート」メニューを表示するときに押します。

11 Alt キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

12 Application キー

マウスの右クリックと同じ役割をします。

選択した項目のショートカットメニューを表示するときに押します。

13 Enter キー

リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

文を改行したり、コマンドを実行したりします。

14 Delete キー

文字を削除するときに押します。また、【Ctrl】キーと【Alt】キーと一緒に押すと、本ワクステーションをリセットできます。

15 End キー

カーソルを行の最後に一度に移動するときに押します。

【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最後に一度に移動します。

16 カーソルキー

カーソルを移動します。

17 Page Down キー

次の画面に切り替えるときに押します。

18 Page Up キー

前の画面に切り替えるときに押します。

19 テンキー

「Num Lock」インジケータ点灯時に数字が入力できます。

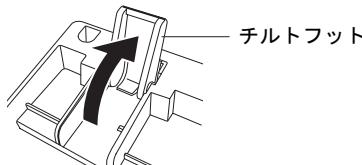
「Num Lock」インジケータ消灯時にキーワーク段に刻印された機能が有効になります。

20 Num Lock キー

テンキーの機能を切り替えるときに押します。

 **POINT**

- ▶ キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけることができます。



3 CD／DVDについて

CD／DVDの取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

重要

- ▶ ここでは、CD-ROM、音楽CDおよびCD-R/RWディスクをまとめてCD、DVD-ROMやDVD-VideoなどをまとめてDVDと呼んでいます。また、CDやDVDをまとめてディスクと呼びます。
- ▶ カスタムメイドで選択したドライブによって、使用できるディスクは異なります。

取り扱い上の注意

■ ディスクご使用時の注意事項

- ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

■ DVDディスクご使用時の注意事項

- 次のDVDディスクがお使いになります。
 - ・DVDディスクに記録されているリージョンコードに「2」が含まれているか、「ALL」と書かれているディスク
- DVD-Videoを再生するためには、別途ソフトウェアをご購入していただく必要があります。推奨しているソフトウェアは次のとおりです。
 - ・WinDVD™ 6
- ディスクの種類によっては、専用の再生ソフトが添付されている場合があります。ディスクに添付されている再生ソフトについては、弊社では保証いたしません。
- 本ワークステーションに搭載のドライブユニットのリージョンコードは2です(Locale#2)。国ごとに割り当てられた地域コードがディスクに表示されている場合には、ディスクとドライブのリージョンコードが一致しないと、お使いになれない場合があります。
- リージョンコードの設定は、4回までできます。4回変更すると、それ以降はリージョンコードが変更できなくなります。
- DVDのディスクの種類によっては、著作権保護のため、コピープロテクトがかかっている場合があります。

■ ドライブの注意事項

- 本ワークステーションは、円形のディスクのみお使いになれます。円形以外の異形ディスクは、お使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形ディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 「ディスクご使用時の注意事項」が守られていないディスク、ゆがんだディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクはお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。これらのディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm ~ 1.5mm と規定しています。
記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 市販の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクはお使いにならないでください。
- コピーコントロール CD は、現状の音楽 CD の規格に準拠していない特殊なディスクのため、本ワークステーションでの再生および動作保証はできません。コピーコントロール CD のご使用中に不具合が生じた場合は、各コピーコントロール CD の発売元にお問い合わせください。
なお、正式な音楽 CD 規格に準拠した CD には、次のようなロゴが表示されています。



POINT

- ▶ DVD-ROM & CD-R/RW ドライブまたはスーパーマルチドライブをお使いの場合は、次の点にご注意ください。
 - ・ 不正コピー防止の仕様に準拠していない DVD ディスクやビデオ CD は、正常に再生できない場合があります。
 - ・ 本ワークステーションでは DVD-Audio など「使用できるディスク」(→ P.35) に記載されていないディスクの再生および動作保証はできません。

使用できるディスク

本ワークステーションで使用できるディスクは、カスタムメイドの選択によって異なります。お使いのドライブの表をご覧ください。

なお、DVD-RAM/R/RW および DVD+R/RW は、「PC データ用」をお使いになることをお勧めします。

POINT

- ▶ 本ワークステーションでは8cm および 12cm のディスクをお使いになれます。ただし、8cm のディスクをお使いになる場合は、ワークステーション本体を横置きにしてください。

□ CD-ROM ドライブの場合

		読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM		○	×	×
音楽 CD		○	×	×
ビデオ CD		○	×	×
CD-R		○	×	×
CD-RW		○	×	×

□ DVD-ROM & CD-R/RW ドライブの場合

		読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM		○	×	×
音楽 CD		○	×	×
ビデオ CD		○	×	×
CD-R ^{注1}		○	○	×
CD-RW		○	○ ^{注2}	○ ^{注2}
DVD-ROM		○	×	×
DVD-Video		○	×	×
DVD-R (3.95GB / 4.7GB)		○	×	×
DVD-RW		○	×	×
DVD-RAM ^{注3} (4.7GB / 9.4GB)		○	×	×

注1：ウイルス対策ソフトなどを常駐し、ファイルアクセスの監視を行った状態でディスクに書き込むと、書き込み速度が低下する場合があります。

注2：CD-RWに書き込んだデータを削除するには、ディスクに書き込まれているデータをすべて消去する必要があります。

注3：DVD-RAMは、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをご購入ください。カートリッジに入れた状態で使用するタイプ(Type1)は使用できません。また、無理に取り出して使わないでください。

□ スーパーマルチドライブの場合

		読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM		○	×	×
音楽 CD		○	×	×
ビデオ CD		○	×	×
CD-R ^{注1}		○	○	×
CD-RW ^{注2}		○	○ ^{注3}	○ ^{注3}
DVD-ROM		○	×	×
DVD-Video		○	×	×
DVD-R ^{注1} (3.95GB / 4.7GB)		○	○	×
DVD-RW		○	○ ^{注3}	○ ^{注3}
DVD-RAM ^{注4} (4.7GB / 9.4GB)		○	○	○
DVD+R ^{注1}		○	○	×
DVD+RW		○	○ ^{注3}	○ ^{注3}

注1：ウイルス対策ソフトなどを常駐し、ファイルアクセスの監視を行った状態でディスクに書き込むと、書き込み速度が低下する場合があります。

注2：書き換え速度については、最大10倍速までを保証します。

注3：CD-RW、DVD-RW、DVD+RWに書き込んだデータを削除するには、ディスクに書き込まれているデータをすべて消去する必要があります。

注4：DVD-RAMは、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをご購入ください。カートリッジに入れた状態で使用するタイプ(Type1)は使用できません。また、無理に取り出して使わないでください。

□ 推奨ディスク

本ワークステーションで書き込み、書き換えを行う場合は、次のディスクをお使いになることをお勧めします。なお、使用できるディスクは、カスタムメイドの選択によって異なります。

CD-R

太陽誘電 : CDR-74TY、CDR-80TY

CD-RW

富士通サプライ品 : CD-RW74/0241410

三菱化学メディア : SW74QU1、SW74EU1、SW80QU1、SW80EU1

DVD-RAM

松下電器 : LM-HC47、LM-HC47L (4.7GB、カートリッジ無)、
LM-HB47、LM-HB47L (4.7GB、カートリッジ有、取り出し可)、
LM-HB94、LM-HB94L (9.4GB、カートリッジ有、取り出し可)

DVD-R

太陽誘電 : DR47D-TP、DVDR-D47TY

DVD-RW

日本ビクター : VD-RW47A、VD-RW47B

DVD+R

リコー : DRD-4XPC (4倍速)、DRD-24XPC (2.4倍速)

DVD+RW

リコー : DRWD-4XPC (4倍速)、DRWD-24XPC (2.4倍速)

富士通サプライ品は、富士通コワーコ株式会社の取り扱い品です。

お問い合わせ : 03-3342-5375

上記以外の CD-R/RW ディスクや DVD-RAM/R/RW ディスク、DVD+R/RW ディスクをお使いの場合は、書き込み・書き換え速度の低下や正常に書き込み・書き換えができない場合があります。

POINT

- ▶ カスタムメイドで CD-ROM ドライブ以外を選択した場合は、次のことに気をつけてください。
 - ・ 本ワークステーションで作成した CD-R/CD-RW は、お使いになる CD プレーヤーによっては再生できない場合があります。
 - ・ 本ワークステーションで作成した DVD-RAM/R/RW、DVD+R/RW は、お使いになる DVD プレーヤーによっては、再生できない場合があります。
 - また、再生に対応した DVD プレーヤーをお使いの場合でも、ディスクの記録状態によっては再生できない場合があります。

DVD-RAMへの書き込み・書き換えについて

DVD-RAMを作成する場合には、あらかじめDVD-RAMディスクをフォーマット（初期化）する必要があります。

9.4GBの両面タイプのDVD-RAMディスクについては、片面ごとにフォーマットしてください。
2.6/5.2GBのDVD-RAMディスクについてはフォーマットすることはできません。

■ DVD-RAMのフォーマット形式

DVD-RAMディスクのフォーマットには、次のものがあります。

□ FAT形式

Windowsの標準フォーマットで、ハードディスクなどでも使用されています。

- FAT32

Windowsの標準フォーマットです。

□ UDF (Universal Disk Format) 形式

DVDの統一標準フォーマットです。UDF形式でフォーマットしたDVD-RAMメディアでは、エラーチェックツールや最適化（デフラグ）ツールは実行できません。

- UDF1.5

DVD-RAMディスクの標準フォーマットです。

- UDF2.0 (DVD-RAMドライバーソフトのみ選択可能)

DVDフォーラム策定の「ビデオレコーディングフォーマット規格」準拠のフォーマットです。

■ ソフトウェアについて

本ワークステーションのスーパーマルチドライブでDVD-RAMに書き込み・書き換える場合は、次のソフトウェアがお使いになります。

お使いの目的にあわせて、ソフトウェアを選んでください。

重要

▶ DLAとDVD-RAMドライバーソフトを同時にインストールしておくことはできません。

- OS標準のドライバ（Windows XPのみ）

Windows XPをお使いの場合は、OSが標準でサポートしているドライバでDVD-RAMの書き込み・書き換えを行うことができます。

DVD-RAMのフォーマット形式は、FAT32に対応しています。

DLAまたはDVD-RAMドライバーソフトをインストールすると、機能が強化されます。

- DLA

パケットライト機能をお使いになる場合は、DLAをインストールしてください。インストールする場合は、本ワークステーションをインターネットに接続する必要があります。

インストール方法は、『ソフトウェアガイド』の「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」をご覧ください。

DVD-RAMのフォーマット形式は、UDF2.0に対応しています。

- DVD-RAM ドライバーソフト

ハードディスクと同様の操作で DVD-RAM に書き込み・書き換えを行う場合は、松下製 DVD-RAM ドライバをインストールしてください。インストールする場合は、「Sonic RecordNow DX 4.6、DVD-RAM ドライバーソフト」CD を用意してください。

インストール方法は、『ソフトウェアガイド』の「ソフトウェア」—「ソフトウェア一覧」をご覧ください。

DVD-RAM のフォーマット形式は、FAT32、UDF1.5 および UDF2.0 に対応しています。

なお、Windows 2000をお使いの場合は、DVD-RAM ドライバーソフトをインストールすると、マイコンピュータに「リムーバブルディスク」アイコンができます。DVD-RAM を使用するときは、「リムーバブルディスク」アイコンを選んでください。

■ DVD-RAM ディスクに書き込むための準備

DVD-RAM ディスクに書き込む前に、ドライブの設定を変更し、DVD-RAM ディスクをフォーマットしてください。

- Windows XPをお使いの場合、初めて DVD-RAM ディスクに書き込む場合は、次の手順でドライブの設定を変更してください。

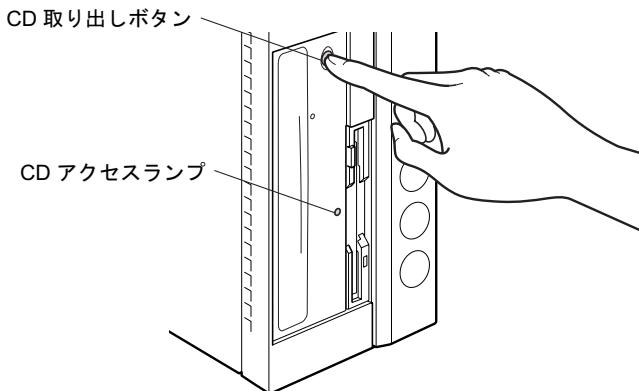
1. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
2. DVD-RAM を割り当てているドライブを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
3. 「書き込み」タブで「このドライブで CD 書き込みを有効にする」のチェックを外します。
4. 「OK」をクリックします。

- DVD-RAM ディスクをフォーマットする場合は、お使いになる目的にあわせて、フォーマット形式を選んでください。

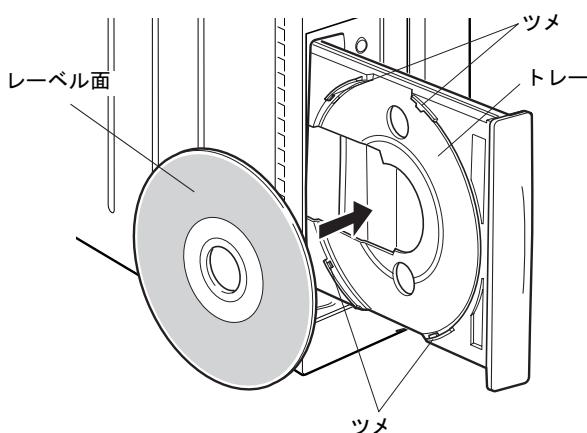
ディスクをセットする／取り出す

■ディスクをセットする

- 1** CD 取り出しボタンを押します。
ディスクをセットするトレーが出てきます。

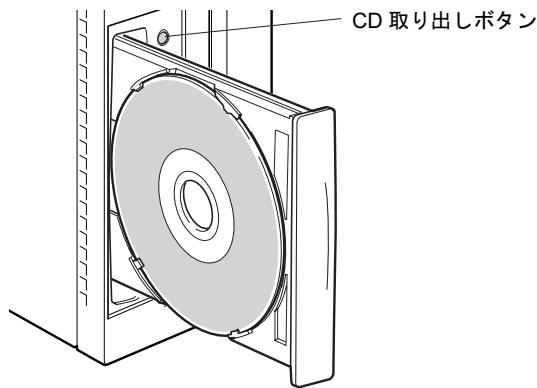


- 2** ディスクのラベル面を左にして、トレーの中央に置きます。
ディスクの落下を防止するためのツメ（4ヶ所）で固定します。



3 CD 取り出しボタンを押します。

トレーがワークステーション本体に入り、ディスクがセットされます。



 **POINT**

- ▶ ディスクをセットすると、CD アクセスランプが点滅します。CD アクセスランプが消えるのを確認してから、次の操作に進んでください。

■ ディスクを取り出す

ディスクを取り出す場合は、CD アクセスランプが消えているのを確認してから、CD 取り出しボタンを押してください。

4 フロッピーディスクについて

フロッピーディスクの取り扱いやセット方法、取り出し方法を説明します。

取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください（ドライブにつまる原因になります）。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください。
- 結露や水滴がつかないようにしてください。

フロッピーディスクをセットする／取り出す

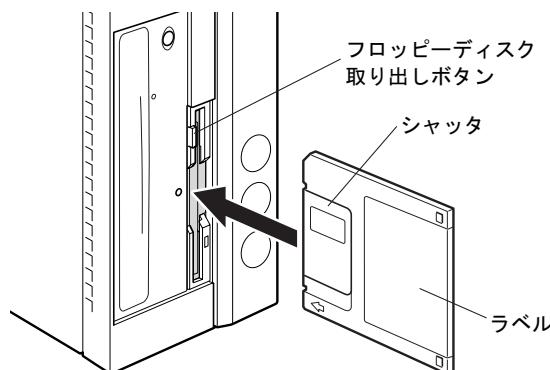
POINT

- ▶ DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクをお使いください。その他のフロッピーディスクをお使いになると、動作が保証されません。

■ フロッピーディスクをセットする

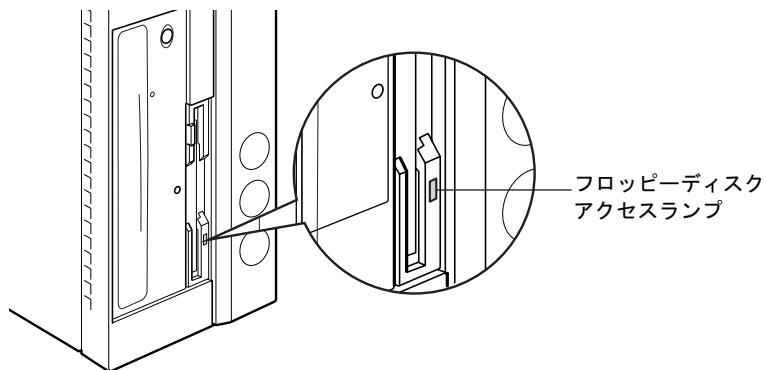
- 1 ラベル面を左にしてシャッタのある側から、フロッピーディスク ドライブに差し込みます。

「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出します。



■ フロッピーディスクを取り出す

- 1 フロッピーディスクアクセスランプが消えていることを確認します。

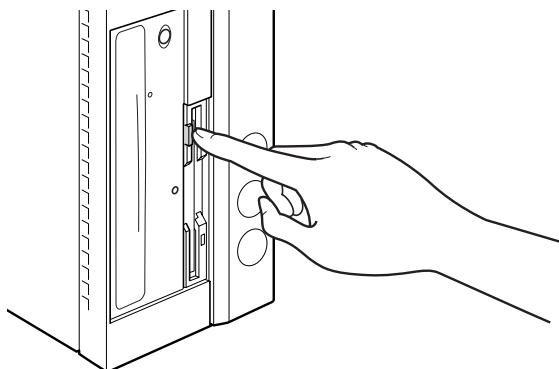


POINT

- ▶ フロッピーディスクアクセスランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。データが破壊される可能性があります。

- 2 フロッピーディスク取り出しボタンを押します。

フロッピーディスクが出てきます。



5 ハードディスクについて

ハードディスクの取り扱いについて、気をつけていただきたいことを説明します。

注意事項

故障の原因となりますので、次の点に注意してください。

- ハードディスクの内部では、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きをしています。非常にデリケートな装置ですので、電源が入ったままの状態で本ワークステーションを持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。
- 極端に温度変化が激しい場所でのご使用および保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないでください。
- 衝撃や振動の加わる場所でのご使用および保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所でのご使用および保管は避けてください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでのご使用および保管は避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 結露や水滴がつかないようにしてください。

POINT

- ▶ 取り扱い方法によっては、ディスク内のデータが破壊される場合があります。重要なデータは必ずバックアップを取っておいてください。
- ▶ 同一タイプのハードディスクでも若干の容量差があります。ハードディスク単位ではなくファイル単位、または区画単位でのバックアップをお勧めします。

6 ハードウェアのお手入れ

ワークステーション本体のお手入れ

△ 警告



- お手入れをする場合は、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に作業してください。

感電の原因となります。

- 柔らかい布で、から拭きします。から拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませ固くしぼった布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぼった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、ワークステーション本体に水が入らないようにご注意ください。
- 中性洗剤以外の洗剤や溶剤などをお使いにならないでください。ワークステーション本体を損傷する原因となります。
- 掃除機などでほこりを吸引するなど、通風孔にほこりがたまないように定期的に清掃してください。

マウスのお手入れ

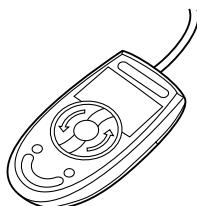
表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、マウス内部に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

また、PS/2 マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

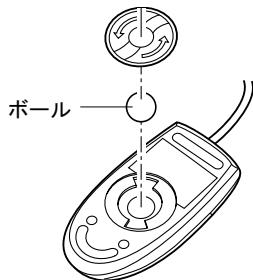
1 マウスの裏ブタを取り外します。

マウス底面にある裏ブタを、矢印の方向に回して取り外します。

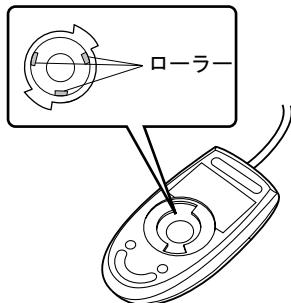


2 ボールを取り出して、水洗いします。

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、ボールを水洗いします。

**3 マウス内部をクリーニングします。**

マウス内部、および裏ブタを、水に浸して固くしぼった布で拭きます。
ローラーは、綿棒で拭きます。

**4 ボール、裏ブタを取り付けます。**

ボールとマウスの内部を十分乾燥させたら、ボールと裏ブタを取り付けます。

キーボードのお手入れ

キーボードの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、キーボード内部に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

また、キーボードのキーとキーの間のホコリなどを取る場合は、圧縮空気などを使ってゴミを吹き飛ばしてください。掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは、長い間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売（サプライ品）のクリーニングフロッピーで、3ヶ月に1回程度クリーニングしてください。

● サプライ品

商品名：クリーニングフロッピィマイクロ

商品番号：0212116

（富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375）

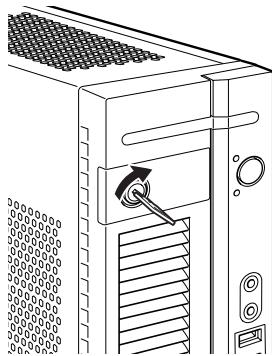
- 1** クリーニングフロッピーをセットします。
- 2** コマンドプロンプトから、dirなどのディスクにアクセスするコマンドを実行します。
例：次のように入力し、【Enter】キーを押します。
`dir a:`
- 3** フロッピーディスクアクセランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。

7 筐体のセキュリティ

ワークステーション内部の装置（ハードディスクやCPUなど）を盗難から守るため、本ワークステーションに施錠できます。

ワークステーション本体前面の施錠方法（カスタムメイドオプション）

- 1 ワークステーション本体前面の鍵穴に、添付の本体カバーキーを差し込み、右に回します。

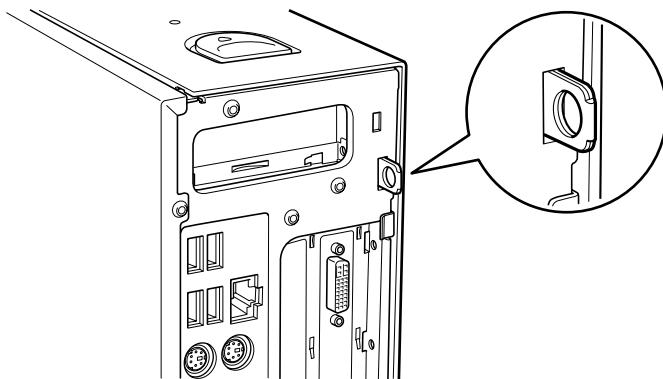


重要

- ▶ 施錠する場合は、お客様の責任で、本体カバーキーを紛失しないようにしてください。
- ▶ 本体カバーキーを紛失した場合は、引取修理による本体カバーの交換が必要となります。
「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
なお、保証期間にかかわらず、鍵の紛失による本体カバーの交換は有償となります。
- ▶ 本体カバーキーを紛失した場合は、訪問修理の際も即日修理ができません。
引取修理になりますので、あらかじめご了承ください。

ワークステーション本体背面の施錠方法

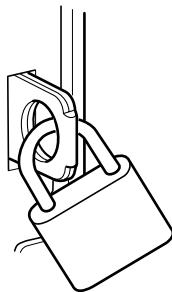
- 1 本体力バーがきちんと取り付けられていることを確認します。



POINT

- セキュリティキー取付金具の穴径は、 $\phi 7.5\text{mm}$ です。

- 2 セキュリティキー取付金具に、市販の鍵を取り付けます。



POINT

- セキュリティキー取付金具には、次のセキュリティワイヤも使用できます。
商品名：セキュリティワイヤ Uni.
商品番号：0522015
(富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375)

第4章

増設

4

本ワークステーションに取り付けられている
(取り付け可能な) 周辺機器について、基本的な
取り扱い方などを説明しています。

1	周辺機器を取り付ける前に	52
2	本体カバーを取り外す	54
3	メモリを取り付ける	55
4	拡張カードを取り付ける	62

1 周辺機器を取り付ける前に

本ワークステーションは、さまざまな周辺機器を接続または内蔵して、機能を拡張できます。

△警告



- 周辺機器を接続する場合には、弊社推奨品以外の機器は接続しないでください。
感電・火災または故障の原因となります。

△注意



- 周辺機器類の取り付け、取り外しを行う際は、マニュアルに指定された場所以外のネジは、外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあり、また、故障の原因となることがあります。
- ケーブル類の接続は本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
誤った接続状態でお使いになると、本ワークステーションおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。



取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- 周辺機器の中には、お使いになれないものがあります
ご購入の前に富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページ (<http://www.fmworld.net/biz/>) 内の「CELSIUS Workstation Series システム構成図」をご覧になり、その周辺機器がお使いになれるかどうかを確認してください。
- 周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします
純正品以外を取り付けて、正常に動かなかったり、ワークステーションが故障しても、保証の対象外となります。
純正品が用意されていない機器については、本ワークステーションに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。
弊社純正品以外の動作については、サポートしません。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけに
一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了してから、別の周辺機器を取り付けてください。
- ワークステーションおよび接続されている機器の電源を切る
安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ワークステーションの電源を切った状態でも、ワークステーション本体内部には電流が流れています。
- 電源を切った直後は作業をしない
電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後10分ほど待ってから作業を始めてください。

● 内蔵の周辺機器について

標準搭載およびカスタムメイドの選択によって搭載された機器は、ご購入時の状態から搭載位置やケーブルの接続先などを変更することをサポートしておりません（マニュアルなどに指示がある場合を除く）。

● 電源ユニットは分解しない

電源ユニットは、ワークステーション本体内部の背面側にある箱形の部品です（「各部名称」—「ワークステーション本体内部」（→ P.15））。

● 内部のケーブル類や装置の扱いに注意

傷つけたり、加工したりしないでください。

● 柔らかい布の上などで作業してください

固いもの上に直接置いて作業すると、ワークステーション本体に傷が付くことがあります。

● 静電気に注意

内蔵周辺機器は、プリント基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を放電してください。

● プリント基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れない

金具の部分や、プリント基板のふちを持つようにしてください。

● 周辺機器の電源について

周辺機器の電源はワークステーション本体の電源を入れる前に入れるもののが一般的ですが、ワークステーション本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。

● ACPIに対応した周辺機器をお使いください

本ワークステーションは、ACPI（省電力に関する電源制御規格の1つ）に対応しています。ACPI対応のOSで周辺機器をお使いになる場合、周辺機器がACPIに対応しているか周辺機器の製造元にお問い合わせください。ACPIに対応していない周辺機器を使うと、ワークステーションおよび周辺機器が正常に動作しないことがあります。

● ドライバーを用意する

周辺機器の取り付けや取り外しには、プラスのドライバーが必要な場合があります。

ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをご用意ください。

2 本体力バーを取り外す

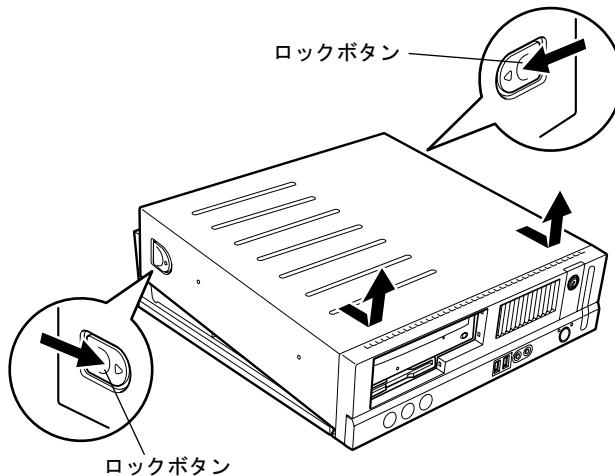
周辺機器を取り付けるときは、本体力バーを取り外して、内部が見える状態にします。

本体力バーの取り外し方

フットを取り付けている場合は、ワークステーション本体からフットを取り外し、横置きにしてから本体力バーを取り外してください。

- 1 ワークステーション本体両側のロックボタンを本体前面にスライドさせ、本体力バーを取り外します。

ワークステーション本体前側にスライドさせてから、上に持ち上げて取り外します。



POINT

- ▶ 本体力バーを施錠している場合は、解錠してください。
- ▶ 取り付ける場合は、取り外す手順を参照してください。

3 メモリを取り付ける

本ワークステーションのメモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、ワークステーションの処理能力があがります。

POINT

- ▶ ご購入後、メモリを取り付ける場合は、Windows のセットアップをしてから、一度電源を切った後に取り付けてください (→ 『取扱説明書』)。

⚠ 警告



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に作業してください。感電の原因となります。



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切り電源プラグをコンセントから抜いた後、十分に待ってから作業をしてください。火傷の原因となります。



- メモリを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。
感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 注意



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジを外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



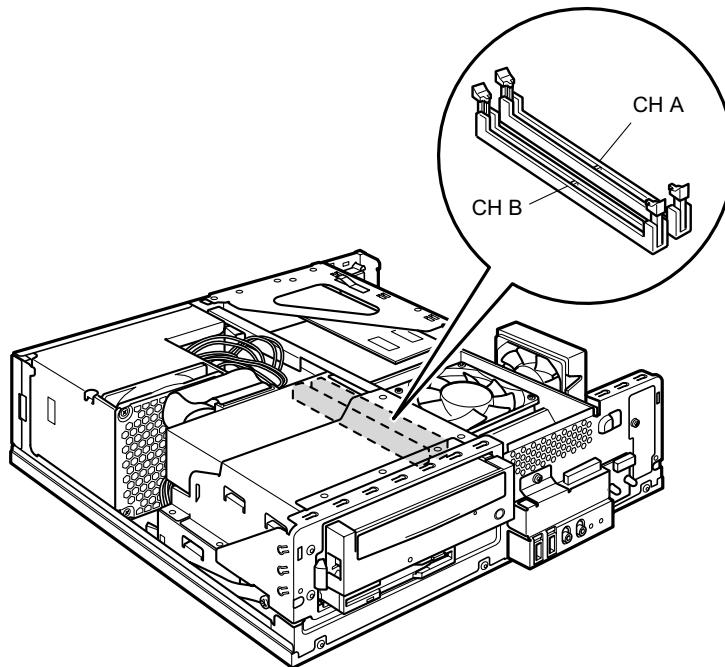
- プリント基板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- メモリは何度も抜き差ししないでください。
故障の原因となることがあります。

メモリの取り付け場所

メモリは、ワークステーション本体内部のメモリスロットに取り付けます。



取り付けられるメモリ

本ワークステーションにメモリを増設する場合は、弊社純正品の「拡張 RAM モジュール DDR2 SDRAM PC2-3200 対応 (ECC あり)」をお使いください。

■ メモリの組み合わせ表

本ワークステーションには、最大で 2GB のメモリを取り付けることができます。

メモリを増設するときは、次の表でメモリの容量とスロットの組み合わせを確認し、正しく取り付けてください。表以外の組み合わせでは、本ワークステーションが正しく動作しない場合があります。

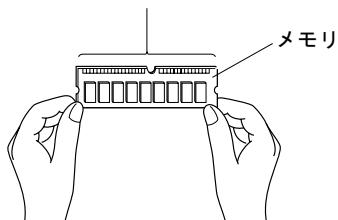
CH A	CH B	総容量
256 MB	—	256 MB (標準)
256 MB	256 MB	512 MB
512 MB	512 MB	1 GB
1 GB	1 GB	2 GB

メモリを取り付ける

○ 重要

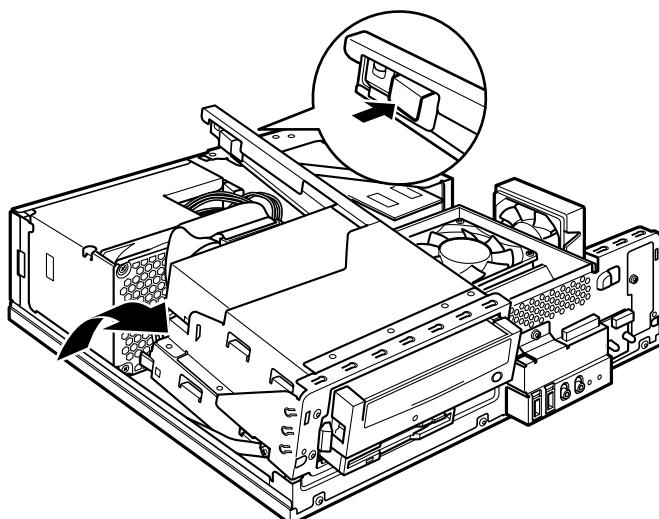
- ▶ メモリは次図のようにふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。

この部分には手を触れないでください。



- ▶ メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、メモリが補助金具などに触れないように注意してください。

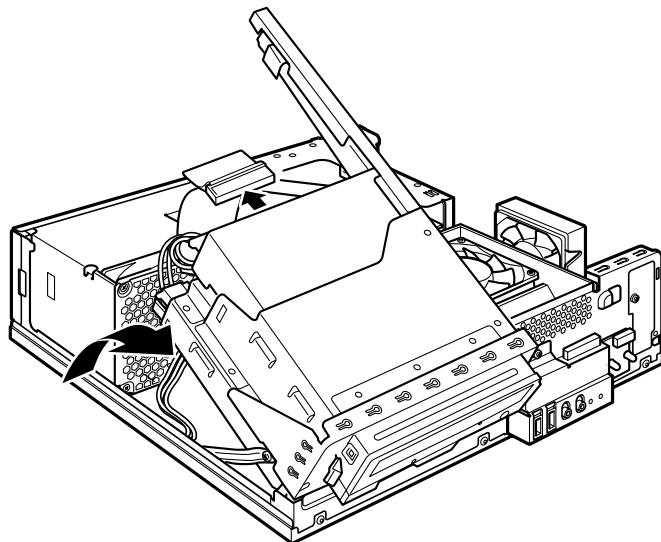
- 1** ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2** 縦置きにしている場合は、フットを取り外し、ワークステーション本体を横置きにします。
- 3** 本体カバーを取り外します（→ P.54）。
- 4** 留め具のロックボタンを押しながら、ドライブユニットを前に起こします。



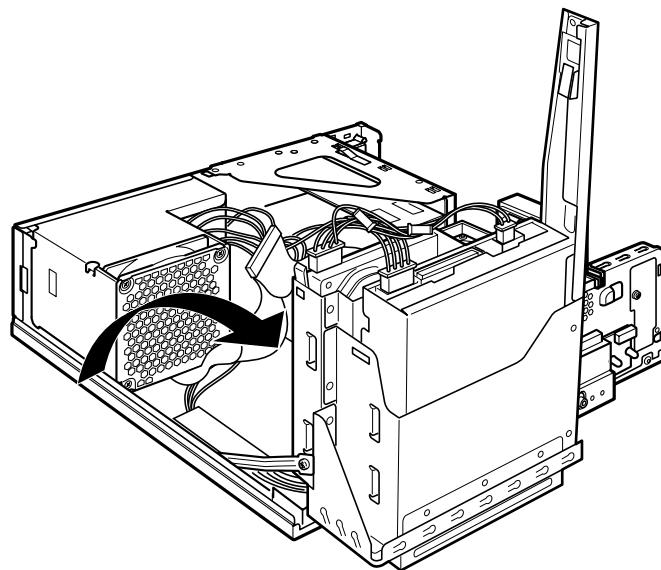
4

増設

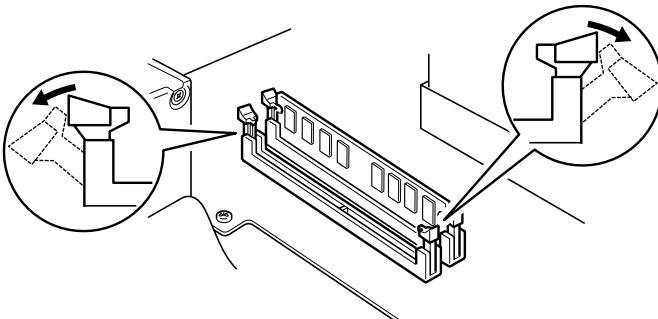
- 5** ドライブユニットを前に起こしている途中で、CD-ROM ドライブのフラットケーブルを取り外します。



- 6** ドライブユニットが垂直になるまで引き起こします。



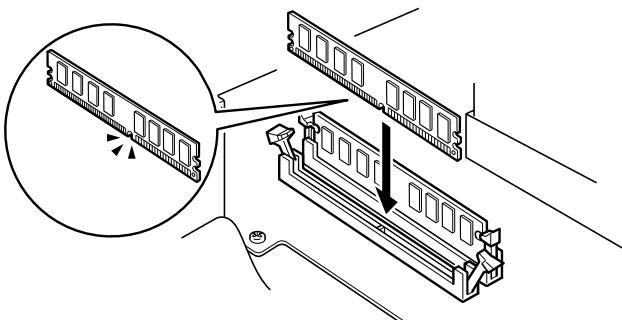
7 スロットの両側のフックを外側に開きます。



8 メモリをスロットに差し込みます。

メモリの切り欠け部分とスロットの切り欠け部分を合わせるようにして、スロットに垂直に差し込みます。

正しく差し込まれると、スロットの両側のフックが起きます。このとき、フックがメモリをしっかりと固定しているか確認してください。

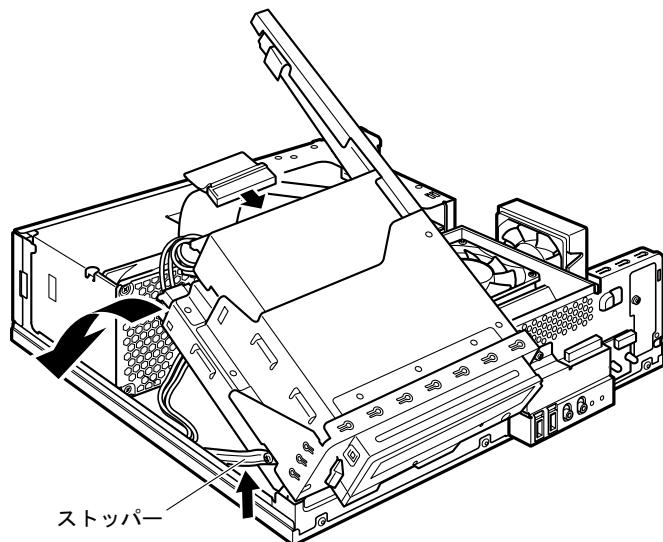


POINT

- ▶ 逆向きに差し込んだ場合、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。

9 CD-ROM ドライブにフラットケーブルを取り付けます。

ドライブユニットを支えているストッパーを外して、ドライブユニットを少し倒してから取り付けてください。

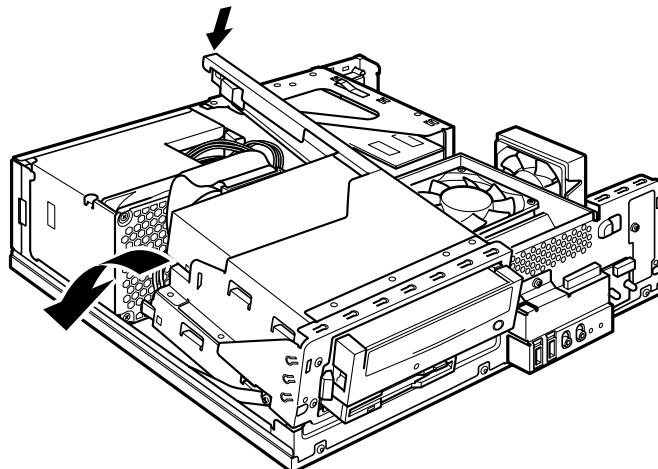


POINT

- ▶ 電源ケーブルはフラットケーブルの内側にしまってください。

10 ドライブユニットを元の位置に戻し、留め具部分を押さえてロックします。

元の位置に戻すとき、未使用的電源コネクタ先端内部の金属端子が、金属部品に接触しないことを確認し、電源ユニットからの配線をロック部に噛み込まないようにしてください。

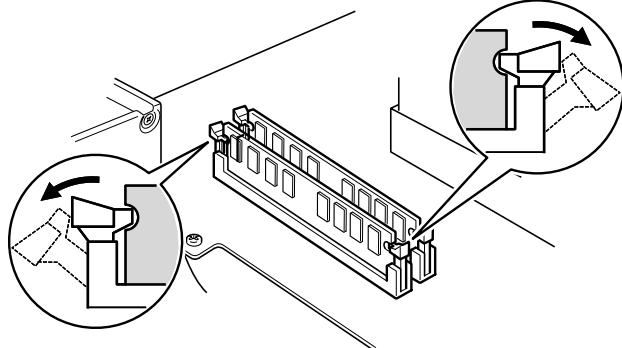


11 本体力バーを取り付けます。

12 縦置きにする場合は、フットを取り付け、ワークステーション本体を縦置きにします。

13 電源プラグをコンセントに差し込みます。**POINT**

- ▶ メモリを取り外す場合は、取り付ける手順を参照してください。なお、取り外したメモリは、大切に保管してください。
- ▶ スロットの両側のフックを外側に開くときは、勢いよく開かないように注意してください。フックを勢いよく外側に開くと、メモリが飛び抜け、故障の原因となることがあります。



4 拡張カードを取り付ける

拡張カードは、本ワークステーションの機能を拡張します。

POINT

- ▶ ご購入後、拡張カードを取り付ける場合は、Windows のセットアップをしてから、一度電源を切った後に取り付けてください（→『取扱説明書』）。

△警告



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に作業してください。感電の原因となります。



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切り電源プラグをコンセントから抜いた後、十分に待ってから作業をしてください。火傷の原因となります。



- 拡張カードを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。感電・火災または故障の原因となることがあります。

△注意



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



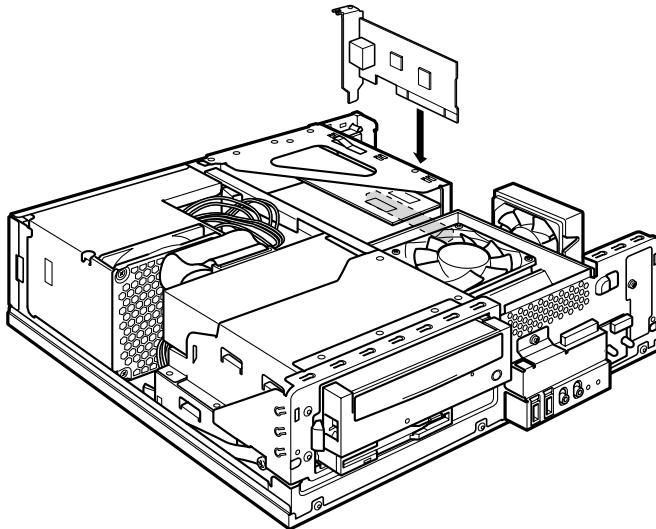
- プリント基板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- メインボードのワークステーション本体背面側の金具には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

拡張カードの取り付け場所

拡張カードは、ワークステーション本体内部の拡張カードスロットに取り付けます。

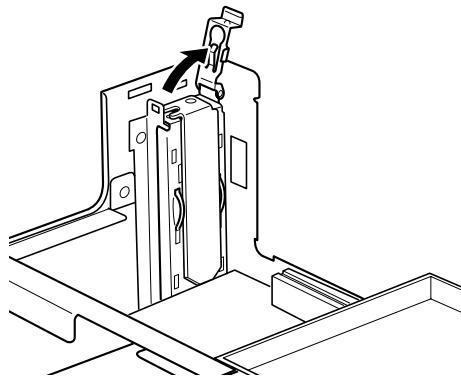


取り付けられる拡張カード

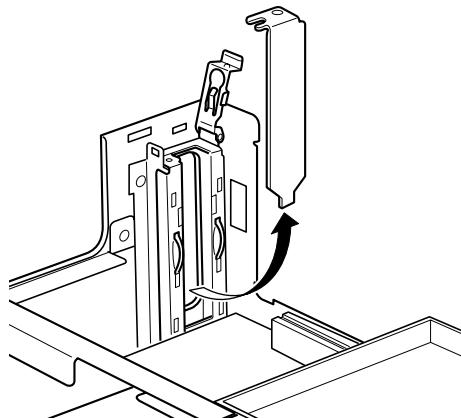
本ワークステーションの拡張カードスロットには、最大長 176mm (ハーフサイズ) の Low Profile 用 PCI 規格の拡張カードを取り付けられます。

拡張カードを取り付ける

- 1 ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 縦置きにしている場合は、フットを取り外し、ワークステーション本体を横置きにします。
- 3 本体力バーを取り外します（→P.54）。
- 4 スロットカバーロックを押し上げます。



- 5 スロットカバーを取り外します。

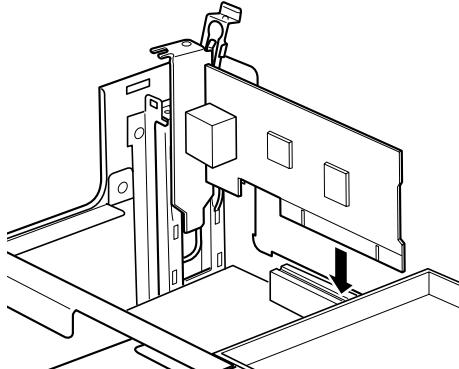
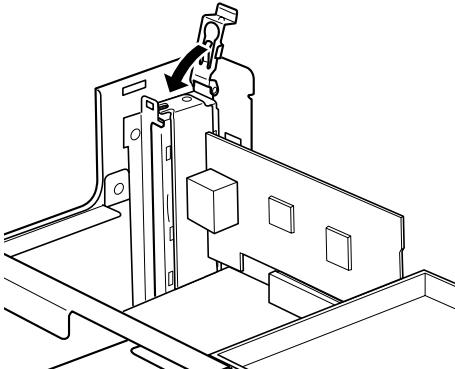


POINT

- ▶ 取り外したスロットカバーは大切に保管してください。
拡張カードを取り外してお使いになる際、ワークステーション内部にゴミが入らないよう取り付けます。

6 拡張カードをスロットに差し込みます。

拡張カードをスロットにしっかりと差し込みます。

**7 スロットカバーロックを戻して固定します。****8 本体カバーを取り付けます。****9 縦置きにする場合は、フットを取り付け、ワークステーション本体を縦置きにします。****10 電源プラグをコンセントに差し込み、本ワークステーションの電源を入れます。**

デバイスマネージャとリソースが自動的に設定され、拡張カードが使えるようになります。

POINT

- ▶ 拡張カードを取り外す場合は、取り付ける手順を参照してください。
- ▶ 拡張カードの取り付け後に画面にメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ▶ 拡張カードを使用する前に、デバイスマネージャに正しく登録されていることを確認してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

Memo

第 5 章

BIOS

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本ワークステーションのデータを守るためにパスワードを設定する方法について説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1 BIOS セットアップとは	68
2 BIOS セットアップの操作のしかた	69
3 メニュー詳細	72
4 BIOS のパスワード機能を使う	89

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本ワークステーションご購入時には、必要最小限のことはすでに設定されています。次の場合に設定の変更が必要になります。

- 特定の人だけが本ワークステーションを利用できるように、本ワークステーションにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- リソースの設定を変更するとき
- 自己診断中に BIOS セットアップを促すメッセージが表示されたとき
- ACPI スタンバイモードを変更するとき
- ハイパー・スレッディング・テクノロジ機能の設定を変更するとき

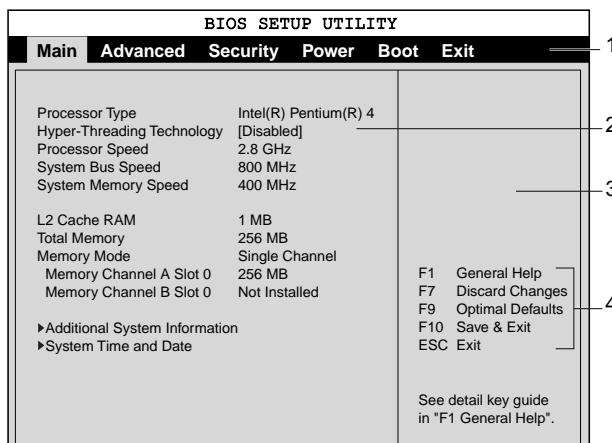
POINT

- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、ワークステーション本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、記録した内容をバッテリによって保存しています。BIOS セットアップを正しく設定しても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されることがあります。このような場合は、バッテリが消耗し、CMOS RAM に設定内容が保存されていない可能性が考えられますので、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

- 1** 作業を終了してデータを保存します。
 - 2** 本ワークステーションを再起動します。
 - 3** 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に【F2】キーを押します。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力して【Enter】キーを押してください。（→P.91）。
BIOS セットアップ画面が表示されます。
- POINT**
- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴの表示が確認できない場合があります。
その場合は、電源を入れた後、または再起動した後に BIOS セットアップ画面が表示されるまで【F2】キーを押し続けてください。
また、BIOS セットアップの「Boot」—「Quick Boot」を「Disabled」に設定することで、「FUJITSU」ロゴを表示できるようになるディスプレイもあります。

5
BIOS

機種や装置により、表示が異なる場合があります。

- 1. メニューバー**
メニューの名称が表示されます。
- 2. 設定フィールド**
各メニューで設定する、項目と設定値が表示されます。
- 3. ヘルプフィールド**
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。
- 4. キー一覧**
設定時に使うキーの一覧です。

各キーの役割

BIOS セットアップで使うキーの役割は次のとおりです。

キー	役割
【F1】キー	BIOS セットアップで使用するキーについて説明しているヘルプ画面が表示されます。
【←】【→】キー	メニューを切り替えます。
【↑】【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【-】【+】キー	各項目の設定値を変更します。
【Enter】キー	次のことを行います。 • ▶が付いている項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。 • 設定値にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、設定値の一覧が表示され、設定値を選択できます。 • 時刻や日付の設定時に時、分、秒または年、月、日の間でカーソルを移動します。
【Page UP】【Home】キー	画面上の一番上の項目にカーソルを移動します。
【Page Down】【End】キー	画面上の一番下の項目にカーソルを移動します。
【F7】キー	変更した設定を取り消します。
【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【F10】キー	変更した設定値を保存して BIOS セットアップを終了します。
【Esc】キー	「Exit」メニューが表示されます。サブメニューが表示されている場合は、1つ前の画面に戻ります。
【Tab】キー	時刻や日付の設定時に時、分、秒または年、月、日の間でカーソルを移動します。

設定値を変更する

BIOS セットアップは、キーボードを使ってすべての操作を行います。

- 1 【←】【→】キーを押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。
- 2 【↑】【↓】キーを押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。
 ▶の付いている項目はサブメニューがあることを表します。
 ▶の付いている項目にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。
- 3 【+】【-】【Enter】キーを押して、設定を変更します。
 さらに他のメニューの設定を変更したいときは、手順1から繰り返します。
 サブメニューを表示していた場合は、【Esc】キーを押すと1つ前の画面に戻ります。

POINT

- ▶ 設定値を変更した場合は、変更した設定項目をメモしておいてください。

BIOS セットアップを終了するときは、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.71) をご覧ください。

BIOS セットアップを終了する

- 1 「Exit」メニューを表示します。
【Esc】キーまたは【←】【→】キーを押してください。
- 2 【↑】【↓】キーを押して終了方法を選び、【Enter】キーを押します。
終了方法は、「Exit メニュー」(→ P.88) をご覧ください。
- 3 【←】【→】キーを押して「OK」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
BIOS セットアップが終了します。

Boot Menu の操作方法

■ Boot Menu を使用する

どのデバイスから起動するかを選択します。

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。または、再起動します。
- 2 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に【F12】キーを押します。
Boot Menu 画面が表示されます。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴの表示が確認できない場合があります。
その場合は、電源を入れた後、または再起動した後に Boot Menu が表示されるまで【F12】キーを押し続けてください。

- 3 【↑】【↓】キーを押して起動するデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。
選択したデバイスから本ワークステーションが起動します。
選択されたデバイスから起動できない場合は、Boot Menu に表示されているデバイスの順番に従って、起動可能なデバイスから起動します。

POINT

- ▶ Boot Menu を終了する場合は、【Esc】キーを押してください。

3 メニュー詳細

BIOS セットアップの個々のメニューを説明します。

POINT

- ▶ BIOS セットアップは、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

Main メニュー

Main メニューでは、ワークステーション本体についての情報が表示されます。また、日時にに関する設定を行います。

■ 設定項目の詳細

□ Processor Type

本ワークステーションに搭載されている CPU の種類が表示されます。

□ Hyper-Threading Technology

ハイパー・スレッディング・テクノロジ機能を有効にするか無効にするかを設定します。

- Disabled (初期値) : 無効にします。
- Enabled : 有効にします。

POINT

- ▶ ハイパー・スレッディング・テクノロジ機能は、Windows XP モデルで、Windows XP Service Pack1a をインストールした場合にのみ使用できます。他の OS をご使用になる場合は、「Disabled」に設定してください。
なお、Windows XP モデルには、あらかじめ Windows XP Service Pack1a がインストールされています。
- ▶ 本設定を「Enabled」に変更した後、「Disabled」に戻す場合は、OS の再インストールまたはリカバリが必要となります。

□ Processor Speed

本ワークステーションに搭載されている CPU の動作速度が表示されます。

□ System Bus Speed

本ワークステーションのシステムバスの速度が表示されます。

□ System Memory Speed

本ワークステーションに搭載されているメモリの速度が表示されます。

□ L2 Cache RAM

本ワークステーションに搭載されている CPU の 2 次キャッシュメモリの容量が表示されます。

□ Total Memory

本ワークステーションに搭載されているメインメモリ（RAM）の合計容量が表示されます。

□ Memory Mode

本ワークステーションに搭載されているメインメモリの動作モードが表示されます。

- ・ Single Channel : シングルモードで動作しています。
- ・ Dual Channel : デュアルモードで動作しています。

□ Memory Channel A/B Slot 0

メモリスロットに取り付けられているメインメモリの容量が表示されます。取り付けられていないスロットは「Not Installed」と表示されます。

□ Additional System Information

サブメニューを使って、本ワークステーションの情報を表示します。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- BIOS Version…BIOS のバージョンが表示されます。
- Onboard LAN MAC Address…本ワークステーションに内蔵されている LAN コントローラの MAC アドレスが表示されます。
- Configuration ID…本ワークステーションのカスタムメイド（BTO）番号が表示されます。

□ System Time and Date

サブメニューを使って、時刻と日付の設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- System Time…24 時間単位で時刻を設定します。キーボードから数値を入力します。【Enter】キーまたは【Tab】キーを押すと、「時：分：秒」の順にカーソルが移動します。また、テンキーの【+】【-】キーで時刻を変更します。
・ 00:00:00 ~ 23:59:59
- System Date…年月日を設定します。キーボードから数値を入力します。【Enter】キーまたは【Tab】キーを押すと、「月／日／年」の順にカーソルが移動します。また、テンキーの【+】【-】キーで日付を変更します。
・ Tue 01/01/1980 ~ Thu 12/31/2099

POINT

- ▶ 「System Time」、「System Date」は一度合わせれば電源を入れるたびに設定する必要はありません。

Advanced メニュー

Advanced メニューでは、周辺機器などに関する設定を行います。

■ 設定項目の詳細

□ Peripheral Configuration

サブメニューを使って、シリアル、パラレルポートなどに関する設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- Serial Port 1…シリアルポート 1 の I/O アドレス、割り込み番号を設定します。

- Disabled : シリアルポート 1 を無効にし、リソースを解放します。
- Enabled (初期値) : シリアルポート 1 の I/O アドレスと割り込み番号で設定した値に従つてシリアルポート 1 を有効にします。

POINT

- ▶ Windows XP/2000 でシリアルポート 1 を使用不可にする場合は、本項目を「Disabled」に設定してください。この場合は、Windows XP/2000 のデバイスマネージャに表示されなくなります。

- Interrupt…「Serial Port 1」を「Enabled」に設定した場合に表示されます。シリアルポート 1 の割り込み番号を設定します。

- IRQ 3、IRQ 4 (初期値)

- Base I/O Address…「Serial Port 1」を「Enabled」に設定した場合に表示されます。シリアルポート 1 の I/O アドレスを設定します。

- 2F8、2E8、3F8 (初期値)、3E8

POINT

- ▶ 「Interrupt」を「IRQ 3」に設定している場合は、「2F8」および「2E8」が選択できます。
- ▶ 「Interrupt」を「IRQ 4」に設定している場合は、「3F8」および「3E8」が選択できます。

- Serial Port 2…シリアルポート 2 の I/O アドレス、割り込み番号を設定します。

- Disabled : シリアルポート 2 を無効にし、リソースを解放します。

- Enabled (初期値) : シリアルポート 2 の I/O アドレスと割り込み番号で設定した値に従つてシリアルポート 2 を有効にします。

POINT

- ▶ Windows XP/2000 でシリアルポート 2 を使用不可にする場合は、本項目を「Disabled」に設定してください。この場合は、Windows XP/2000 のデバイスマネージャに表示されなくなります。

- Interrupt…「Serial Port 2」を「Enabled」に設定した場合に表示されます。シリアルポート 2 の割り込み番号を設定します。なお、シリアルポート 1 すでに設定されている割り込み番号には表示されません。

- IRQ 3 (初期値)、IRQ 4

- **Base I/O Address** … 「Serial Port 2」を「Enabled」に設定した場合に表示されます。シリアルポート 2 の I/O アドレスを設定します。
 - ・2F8（初期値）、2E8、3F8、3E8

POINT

- ▶ 「Interrupt」を「IRQ 3」に設定している場合は、「2F8」および「2E8」が選択できます。
- ▶ 「Interrupt」を「IRQ 4」に設定している場合は、「3F8」および「3E8」が選択できます。

- **Parallel Port**…パラレルポートの I/O アドレス、割り込み番号を設定します。
 - ・ **Disabled** : パラレルポートを無効にし、リソースを解放します。
 - ・ **Enabled**（初期値）: パラレルポートの I/O アドレスと割り込み番号で設定した値に従つて、パラレルポートを有効にします。

POINT

- ▶ Windows XP/2000 でパラレルポートを使用不可にする場合は、本項目を「Disabled」に設定してください。この場合は、Windows XP/2000 のデバイスマネージャに表示されなくなります。

- **Mode**…パラレルポートのデータ転送モードを設定します。
 - ・ **Output only** : 出力専用モードを使う周辺機器を接続する場合に選択します。
 - ・ **Bi-directional** : 双方向モードを使う周辺機器を接続する場合に選択します。
 - ・ **EPP** : EPP 規格の周辺機器を接続する場合に選択します。
 - ・ **ECP**（初期値）: ECP 規格の周辺機器を接続する場合に選択します。
- **Interrupt**…「Parallel Port」を「Enabled」に設定した場合に表示されます。パラレルポートの割り込み番号を設定します。
 - ・ IRQ 5、IRQ 7（初期値）
- **Base I/O Address**…「Parallel Port」を「Enabled」に設定した場合に表示されます。パラレルポートの I/O アドレスを設定します。
 - ・ 378（初期値）、278
- **DMA**…「Parallel Port」を「Enabled」、「Mode」を「ECP」に設定した場合に表示されます。ECP 規格の周辺機器を接続する場合に使う DMA チャネルを設定します。
 - ・ 1、3（初期値）
- **Onboard LAN**…内蔵の LAN コントローラを有効にするかどうかを設定します。
 - ・ **Enabled**（初期値）: 内蔵の LAN コントローラを有効にします。
 - ・ **Disabled** : 内蔵の LAN コントローラを無効にします。
- **Onboard Audio**…内蔵のオーディオデバイスを有効にするかどうかを設定します。
 - ・ **Enabled**（初期値）: 内蔵のオーディオデバイスを有効にします。
 - ・ **Disabled** : 内蔵のオーディオデバイスを無効にします。
- **Onboard 1394**…内蔵の 1394 コントローラを有効にするかどうかを設定します。
 - ・ **Enabled**（初期値）: 内蔵の 1394 コントローラを有効にします。
 - ・ **Disabled** : 内蔵の 1394 コントローラを無効にします。

□ Drive Configuration

サブメニューを使って、ATA/IDE ドライブに関する設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- **PATA Master/Slave**…接続されている ATA/IDE デバイス名が表示されます。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- Type… ATA/IDE デバイスのタイプを設定します。
 - ・ Auto (初期値) : 本ワークステーションが ATA/IDE デバイスのタイプを自動的に設定します。IDE デバイスの各種設定を自分で行わない場合に選択します。
 - ・ User : ATA/IDE デバイスの各種設定を自分で行う場合に選択します。

POINT

- ▶ 通常は、「Auto」の設定でお使いください。

- Maximum Capacity… ハードディスクドライブが接続されている場合に表示されます。ハードディスクの最大容量が表示されます。

POINT

- ▶ 本項目のディスク容量記載は、 $1\text{MB}=1000^2\text{byte}$ 換算によるものです。

- LBA/Large Mode… 「Type」を「User」に設定し、ハードディスクが接続されている場合に設定できます。LBA (Logical Block Addressing : 論理的な通し番号によるアクセス)、拡張 CHS (Cylinder/Head/Sector) 変換を有効にするかどうかを設定します。
 - ・ Disabled : LBA モード、拡張 CHS 変換モードを無効にします。
 - ・ Auto (初期値) : ハードディスクが対応している最適なモードが設定されます。

POINT

- ▶ ハードディスクをフォーマットした後に「LBA/Large Mode」の設定を変更すると、正常にアクセスできない場合があります。フォーマットした後は、変更しないでください。

- Block Mode… 「Type」を「User」に設定し、ハードディスクが接続されている場合に設定できます。マルチセクタ転送を有効にするかどうかを設定します。
 - 一括して転送できるセクタ数が多いほど、ディスクアクセスが高速になります。
 - ・ Disabled : マルチセクタ転送を無効にして、1 セクタずつ転送します。マルチセクタ転送をサポートしていないハードディスクを接続する場合に設定します。
 - ・ Auto (初期値) : マルチセクタ転送を有効にします。ハードディスクが対応している最適なモードが設定されます。
- PIO Mode… 「Type」を「User」に設定している場合に設定できます。デバイスホスト間のデータ転送モード (高速 PIO) を設定します。
 - ・ Auto (初期値) : デバイスが対応している最適なモードが設定されます。
 - ・ Mode0、1、2、3、4 : データ転送モードを設定します。数値が大きいほど転送速度が高速になります。
- Ultra DMA… 「Type」を「Auto」に設定している場合、設定されているウルトラ DMA カードが表示されます。
 - ・ Mode0、1、2、3、4 : 数値が大きいほど転送速度が高速になります。
- DMA Mode… 「Type」を「User」に設定している場合に設定できます。デバイスホスト間のデータ転送モード (シングルワード DMA、マルチワード DMA、ウルトラ DMA) を設定します。
 - ・ Auto (初期値) : デバイスが対応している最適なモードが設定されます。
 - ・ SWDMA0、1、2 : データ転送モードにシングルワード DMA を設定します。数値が大きいほど転送速度が高速になります。
 - ・ MWDMA0、1、2 : データ転送モードにマルチワード DMA を設定します。数値が大きいほど転送速度が高速になります。

- UDMA0、1、2、3、4、5：データ転送モードにウルトラ DMA を設定します。数値が大きいほど転送速度が高速になります。
- S.M.A.R.T…「Type」を「User」に設定し、ハードディスクが接続されている場合に設定できます。ハードディスクの SMART 機能 (Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology : 障害の自己診断機能) を有効にするかどうかを設定します。「Type」を「Auto」に設定している場合に本設定が有効になります。
 - Disabled : SMART 機能を無効にします。
 - Enabled (初期値) : SMART 機能を有効にします。

POINT

▶ SMART 機能による警告表示を行うためには、専用のアプリケーションが必要になります。

- Cable Detected…デバイスの接続に使用しているケーブルの種類が表示されます。
- HDD Password…本ワークステーションに内蔵されているハードディスクのセキュリティパスワードの設定状況が表示されます。
 - Not Installed : パスワードは設定されていません。
 - Installed : パスワードは設定されています。
- Set HDD Password…管理者用パスワードが設定されている場合に表示されます。【Enter】キーを押して、ハードディスクセキュリティパスワードを設定します (→ P.91)。

POINT

▶ 「Set HDD Password」を設定すると、OS の起動時にパスワード入力が要求されます。このときに、誤ったパスワードを 3 回入力すると、ビープ音が鳴り、「Password check failed」と表示され、本ワークステーションはキーボードからの入力に反応しなくなります。この場合、本ワークステーションの電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

□ Floppy Configuration

サブメニューを使って、フロッピーディスクドライブに関する設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- Floppy Disk Controller…内蔵のフロッピーディスクコントローラを有効にするかどうかを設定します。
 - Disabled : 内蔵のフロッピーディスクコントローラを無効にします。
 - Enabled (初期値) : 内蔵のフロッピーディスクコントローラを有効にします。
- Floppy A…「Floppy Disk Controller」が「Enabled」の場合に表示されます。フロッピーディスクドライブのタイプを設定します。
 - 1.44 MB 3 1/2" (初期値)、Disabled
- Floppy Disk Write Protect…「Floppy Disk Controller」が「Enabled」の場合に表示されます。フロッピーディスクへの書き込みを禁止するかどうかを設定します。
 - Disabled (初期値) : フロッピーディスクへの書き込みを許可します。
 - Enabled : フロッピーディスクへの書き込みを禁止します。

POINT

▶ 本項目は、Windows XP/2000 では、無効になります。

□ Event Log Configuration

サブメニューを使って、イベントログに関する設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- **Event Log**…イベントログを保存可能かどうかが表示されます。
 - Space Available : イベントログは保存可能です。
 - Full : イベントログは保存できません。保存領域がすべて使用済みです。
- **View Event Log**…【Enter】キーを押すと、保存しているイベントログの詳細が表示されます。
- **Clear Event Log**…イベントログの内容が消去されます。【Enter】キーを押すと、「Clear Event Log now?」というメッセージが表示されるので、「OK」を選択して【Enter】キーを押してください。イベントログの内容が消去されます。
- **Event Logging**…イベント発生時にイベントログを記録するかどうかを設定します。
 - Disabled : イベントログを記録しません。
 - Enabled (初期値) : イベントログを記録します。

□ Video Configuration

サブメニューを使って、ディスプレイに関する設定を行います。

PCI のビデオカードを搭載した場合に設定できます。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- **Primary Video Adapter**…PCI のグラフィックスカードを増設した場合、PCI カードと PCI Express x16 カードのどちらをプライマリディスプレイとして使用するかを設定します。
 - Ext PCIE Graphics (PEG) (初期値) : PCI Express x16 Graphics カードを使用します。
 - Ext PCI Graphics : PCI のビデオカードを使用します。

□ USB Configuration

サブメニューを使って、USB に関する設定を行います。

カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- **USB Controller**…USB コントローラを有効にするかどうかを設定します。本設定は、自己診断 (POST) の終了後、有効になります。
 - Auto (初期値) : すべての USB ポートのコントローラを有効にします。
 - Rear Only : ワークステーション本体背面の USB ポートのコントローラのみを有効にします。
 - Disabled : すべての USB ポートのコントローラを無効にします。
- **USB2.0 Support**…「USB Controller」が「Auto」または「Rear Only」の場合に表示されます。USB2.0 コントローラを使用するかどうかを設定します。本設定は、自己診断 (POST) の終了後、有効になります。
 - Enabled (初期値) : USB2.0 コントローラを有効にします。
 - Disabled : USB2.0 コントローラを無効にします。接続した USB 規格の機器は、USB1.1/1.0 での動作となります。
- **USB Legacy Support**…「USB Controller」が「Auto」または「Rear Only」の場合に表示されます。USB 対応していない OS で USB 規格の周辺機器を使用可能にするかどうかを設定します (Windows XP/2000 は、USB 対応です)。ただし、すべての USB 規格の周辺機器の動作は保証できません。
 - Disabled (初期値) : USB 規格の周辺機器を使用できないようにします。
 - Enabled : USB 規格の周辺機器を使用できるようにします。

- **USB Power Supply**…電源オフ時に USB ポートに電源を供給するかどうかを設定します。
 - Power-On : USB ポートに電源を供給します。
 - Power-Off (初期値) : USB ポートに電源を供給しません。

POINT

- ▶ 本設定を「Power-Off」にしても、スタンバイ時や休止時には USB ポートに電源を供給します。

□ Hardware Monitoring

サブメニューを使って、ハードウェアモニタの確認を行います。

- **Processor Zone Temperature**…CPU の現在の温度 (°C) が表示されます。
- **Int. Sensor Temperature**…メインボードに搭載されている内部温度センサー (Int. Sensor) (→ P.16) の現在の温度 (°C) が表示されます。
- **Ext. Sensor Temperature**…メインボードに搭載されている外部温度センサー (Ext. Sensor) (→ P.16) の現在の温度 (°C) が表示されます。
- **Processor Fan Speed**…CPU に取り付けられているファンの現在の回転数 (RPM) が表示されます。
- **System Fan Speed**…筐体に取り付けられているファンの現在の回転数 (RPM) が表示されます。
- **+3.3V**…3.3V ラインの現在の電圧 (V) が表示されます。
- **+5Vin**…5V ラインの現在の電圧 (V) が表示されます。
- **+12Vin**…12V ラインの現在の電圧 (V) が表示されます。
- **CPU VID**…CPU の現在の電圧 (V) が表示されます。

Security メニュー

Security メニューでは、本ワークステーションを特定の人だけが使用できるように設定を行います。

■ 設定項目の詳細

□ Supervisor Password

管理者用パスワードの設定状況が表示されます。

- Not Installed : パスワードは設定されていません。
- Installed : パスワードは設定されています。

□ User Password

ユーザー用パスワードの設定状況が表示されます。

- Not Installed : パスワードは設定されていません。
- Installed : パスワードは設定されています。

□ Set Supervisor Password

【Enter】キーを押して、管理者用パスワードを設定します（→ P.90）。

POINT

- ▶ 「Supervisor Password」を設定すると、BIOS セットアップの起動時にパスワード入力が要求されます。このときに、誤ったパスワードを 3 回入力すると、ビープ音が鳴り、「Password check failed Fatal Error...System halted」と表示され、本ワークステーションはキーボードからの入力に反応しなくなります。この場合、本ワークステーションの電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

□ User Access Level

管理者用パスワードが設定されている場合に表示されます。ユーザー用パスワードで BIOS セットアップを起動した場合に制限する項目を設定します。

- No Access : BIOS セットアップを起動できません。
- View Only : BIOS セットアップの設定内容の表示のみできます。
- Limited(初期値) : 「System Time」、「System Date」、「Set User Password」、「Clear User Password」のみ設定可能できます。
- Full : BIOS セットアップのすべての項目を設定できます。

□ Set User Password

管理者用パスワードが設定されている場合に表示されます。【Enter】キーを押して、ユーザー用パスワードを設定します（→ P.90）。

POINT

- ▶ 「Set User Password」を設定すると、BIOSセットアップの起動時とOSの起動時にパスワード入力が要求されます。このときに、誤ったパスワードを3回入力すると、ビープ音が鳴り、「Password check failed Fatal Error...System halted」と表示され、本ワークステーションはキーボードからの入力に反応しなくなります。この場合、本ワークステーションの電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、10秒以上待ってから電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

□ Clear User Password

ユーザー用パスワードが設定されている場合に表示されます。ユーザー用パスワードを削除できます(→P.92)。

□ Chassis Intrusion

本体カバーが取り外されたことによるエラーを検出するかどうかを設定します。

- ・ Disabled (初期値) : 本体カバーが取り外されたことによるエラーを検出しません。
- ・ Log : 本体カバーが取り外されたことによるエラーを検出した場合、イベントログにのみ記録します。
- ・ Log, notify once : 本体カバーが取り外されたことによるエラーを検出した場合、イベントログに記録し、一度だけ通知します。
- ・ Log, notify until cleared : 本体カバーが取り外されたことによるエラーを検出した場合、イベントログに記録し、「Clear chassis intrusion stats」で本体カバーが取り外されたことによるエラーイベントをクリアするまで、通知します。

□ Clear chassis intrusion stats

「Chassis Intrusion」が「Log, Notify until cleared」の場合に、本体カバーが取り外されたことによるエラーイベントを検出した際に表示されます。

本体カバーが取り外されたことによるエラーイベントをクリアします。【Enter】キーを押すと、「clear chassis intrusion stats?」というメッセージが表示されるので、「OK」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押してください。本体カバーが取り外されたことによるエラーイベントがクリアされます。

□ Hard Disk Boot Sector

ハードディスクの起動セクタをウイルスから保護するため、起動セクタへの書き込みを禁止するかどうかを設定します。

- ・ Normal (初期値) : 起動セクタへの書き込みを禁止しません。
- ・ Write protected : 起動セクタへの書き込みを禁止します。

POINT

- ▶ OSをインストールする場合は、「Normal」に設定してください。
- ▶ 本項目は、Windows XP/2000では無効になります。

□ Flash ROM Write Protect

BIOSフラッシュメモリへの書き込みを可能にするかどうかを設定します。

- ・ Disabled (初期値) : 書き込みを可能にします。
- ・ Enabled : 書き込みを禁止します。

□ Smartcard PC Lock

OS や BIOS セットアップの起動時にスマートカードによる認証を行うかどうかを設定します。スマートカード（カスタムメイドオプション）をお使いの場合、本項目を設定します。

- **Disabled**（初期値）：スマートカードによる認証を行いません。
- **Enabled**：スマートカードによる認証を行います。

POINT

- ▶ 本項目は、カスタムメイドでスマートカードリーダ／ライタを選択した場合に表示されます。
- ▶ 本項目の設定を行う場合は、『CELSIUS マニュアル』内の『スマートカードリーダ／ライタ追加取扱説明書』をあわせてご覧ください。

Power メニュー

Power メニューでは、スタンバイの方法や自動起動に関する設定を行います。

■ 設定項目の詳細

□ ACPI Suspend State

ACPI に対応した OS のスタンバイ方式を設定します。

- ・ **S1 State** : スタンバイ方式を S1 (Sleep1 : Power On Suspend) に設定します。システムの状態は保持していますが、CPU を停止させます。
- ・ **S3 State (初期値)** : スタンバイ方式を S3 (Sleep3 : Suspend To RAM) に設定します。システムの状態をメモリに保持し、その他の回路を停止させます。

POINT

- ▶ 本設定を変更する場合は、『ソフトウェアガイド』の「機能」－「ACPI のスタンバイモードを設定する」をご覧ください。

□ After Power Failure

停電などで電源が切断された場合に、通電再開時の動作を設定します。

- ・ **Stay Off (初期値)** : 電源が切れたままになります。
- ・ **Last State** : 電源が切断されたときの状態に戻ります。
- ・ **Power On** : 電源が入ります。

POINT

- ▶ 「Last State」に設定していて、電源が切れたときの状態がスタンバイの場合、通電再開時に電源が入ります。

□ Wake on LAN

内蔵の LAN または PME 対応の LAN カード (PCI) が Magic Packet (ウェイクアップ信号) を受信したときに電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。

- ・ **Stay Off (初期値)** : Magic Packet を受信しても、電源を入れません。
- ・ **Power On** : Magic Packet を受信したときに、電源を入れます。

POINT

- ▶ Windows XP/2000 では、本項目を設定してスタンバイ状態や休止状態から復帰させることはできません。デバイスマネージャで設定してください。

□ Wake on RTC Alarm

指定した時刻に電源を入れるかどうかを設定します。

- ・ **Disabled (初期値)** : 指定した時刻に電源を入れません。
- ・ **Enabled** : 「RTC Alarm Date (Days)」、「RTC Alarm Time」で指定した時刻に電源を入れます。
- **RTC Alarm Date (Days) … 「Wake on RTC Alarm」** が「Enabled」の場合に表示されます。
電源を入れる日付を設定します。【+】【-】キーで設定します。
- ・ **Everyday (初期値)**、1 ~ 31

- RTC Alarm Time… 「Wake on RTC Alarm」が「Enabled」の場合に表示されます。電源を入れる時刻を設定します。時：分：秒（24時間制）で設定します。
• 00:00:00（初期値）～23:59:59

 **POINT**

- ▶ Windows XP/2000 では、本項目を設定してスタンバイ状態や休止状態から復帰させることはできません。次の設定をしてください。
 - Windows XP の場合
「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「タスク」－「スケジュールされたタスクの追加」で起動時間を設定し、プロパティの「設定」－「タスクの実行時にスリープを解除する」をチェックしてください。
 - Windows 2000 の場合
「コントロールパネル」－「タスク」－「タスクの追加」で起動時間を設定し、プロパティの「設定」－「タスクの実行時にスリープを解除する」をチェックしてください。

Boot メニュー

Boot メニューでは、起動時の動作について設定を行います。

■ 設定項目の詳細

□ Silent Boot

本ワークステーションの起動時または再起動時に自己診断（POST）画面を表示するかどうかを設定します。

- ・ Disabled : 起動時または再起動時に自己診断（POST）が表示されます。
- ・ Enabled（初期値）: 起動時または再起動時に「FUJITSU」ロゴが表示されます。

POINT

- ▶ 拡張カード上の BIOS メッセージを確認したい場合は、「Disabled」に設定してください。

□ Quick Boot

本ワークステーションの起動時または再起動時に自己診断（POST）を簡略化するかどうかを設定します。

- ・ Disabled : 起動時に自己診断（POST）を簡略化しません。
- ・ Enabled（初期値）: 起動時に自己診断（POST）を簡略化します。

□ Numlock

起動時または再起動時に、キーボードのテンキーを有効にするかどうかを設定します。

- ・ Off（初期値）: キーボードのテンキーを無効にします。
- ・ On : キーボードのテンキーを有効にします。

POINT

- ▶ Windows XP/2000 では、OS 起動後は、前回の電源オフ時に OS が記録した状態に戻ります。

□ PXE Boot to LAN

内蔵の LAN コントローラを経由してネットワークサーバーからの起動を有効にするかどうかを設定します。

- ・ Disabled : ネットワークサーバーからの起動を無効にします。
- ・ Enabled（初期値）: ネットワークサーバーからの起動を有効にします。

POINT

- ▶ ネットワークサーバーから起動可能な LAN カードをお使いの場合、「Boot Device Priority」に、お使いの LAN カードのデバイス名が追加されます。表示されるデバイス名は、LAN カードにより異なります。
- ▶ ネットワークサーバーから起動するためには、「Wired for Management Baseline Version2.0」に準拠したインストレーションサーバーシステムが必要となります。

□ Halt On Error

自己診断（POST）中にエラーを検出したとき、エラーを表示して本ワークステーションの起動を停止するかどうかを設定します。

- ・ Disabled : エラーを無視して、本ワークステーションを起動します。
- ・ Enabled（初期値）: エラーが表示され、本ワークステーションの起動を停止します。

□ Keyboard Error Detection

キーボードに関するエラーを検出するかどうかを設定します。

- ・ Disabled : キーボードに関するエラー検出を行いません。
- ・ Enabled (初期値) : キーボードに関するエラー検出を行います。

POINT

- ▶ キーボードエラーを検出した際に、エラーを表示して本ワークステーションの起動を停止させたい場合は、「Halt On Error」を「Enabled」に設定してください。

□ FDD Error Detection

「Floppy Controller」を「Enabled」に設定した場合に表示されます。

フロッピーディスクドライブに関するエラーを検出するかどうかを設定します。

- ・ Disabled (初期値) : フロッピーディスクドライブに関するエラーを検出しません。
- ・ Enabled : フロッピーディスクドライブに関するエラーを検出します。エラー検出を行うため POST (自己診断) にかかる時間が長くなります。

POINT

- ▶ フロッピーディスクドライブエラーを検出した際に、エラーを表示して本ワークステーションの起動を停止させたい場合は、「Halt On Error」を「Enabled」に設定してください。

□ Fan Error Detection

CPU ファンやシステムファンに関するエラーを検出するかどうかを設定します。

- ・ Disabled : ファンに関するエラー検出を行いません。
- ・ Enabled (初期値) : ファンに関するエラー検出を行います。

POINT

- ▶ ファンエラーを検出した際に、エラーを表示して本ワークステーションの起動を停止させたい場合は、「Halt On Error」を「Enabled」に設定してください。

□ Boot Menu

本ワークステーションの起動時または再起動時に、【F12】キーを押すことによって、BootMenu (起動デバイスを選択するメニュー) を表示するかどうかを設定します。

- ・ Enabled (初期値) : BootMenu を表示します。
- ・ Disabled : BootMenu を表示しません。

□ Boot Device Priority

OS を読み込むデバイスの優先順位を設定します。【↑】【↓】キーを使って優先順位を選択し、【+】【-】キーでデバイスのカテゴリまたはネットワークデバイスを選択してください。また、各優先順位にカーソルに合わせて【Enter】キーを押すと、デバイスのカテゴリおよびネットワークデバイスの一覧が表示されます。【↑】【↓】キーを使って、デバイスの優先順位を選択してください。

- ・ 初期値

1st Boot Device : Removable Devices

2nd Boot Device : Hard Disk Drives

3rd Boot Device : CD/DVD Drives

4th Boot Device : MBA v7.5.xx Slot 0200 (標準搭載の LAN)

POINT

- ▶ 同じカテゴリに起動可能なデバイスが複数接続している場合、各カテゴリ内の優先順位に従って起動します。そのカテゴリ内に起動デバイスが存在しない場合、次の優先順位のカテゴリから起動デバイスが選択されます。
- ▶ 起動させたくないデバイスは、各カテゴリ内で、優先順位に割り当てないでください。

□ Hard Disk Drives

ハードディスクドライブとして扱うデバイスの一覧です。

【↑】【↓】キーを使って優先順位を選択し、【+】【-】キーでデバイスを選択してください。また、各優先順位にカーソルに合わせて【Enter】キーを押すと、デバイスの一覧が表示されます。【↑】【↓】キーを使って、デバイスのカテゴリを選択してください。優先順位にデバイスを割り当てないときは、「Disabled」を選択してください。
なお、デバイスが内蔵 ATA/IDE コントローラに接続されている場合は、デバイス名の先頭に、その接続先を示す PM(プライマリマスター)や PS(プライマリスレーブ)などが表示されます。

POINT

- ▶ ドライブが接続されていない場合、本項目は表示されません。
- ▶ ドライブの取り付けや取り外しなどでドライブの構成が変わると、本設定が自動的に変更される場合があります。ドライブの取り付けや取り外しを行った場合は、本設定が正しく設定されているかどうかを確認されることをお勧めします。

□ Removable Devices

フロッピーディスクドライブとして扱うデバイスの一覧です。

【↑】【↓】キーを使って優先順位を選択し、【+】【-】キーでデバイスを選択してください。また、各優先順位にカーソルに合わせて【Enter】キーを押すと、デバイスの一覧が表示されます。【↑】【↓】キーを使って、デバイスのカテゴリを選択してください。優先順位にデバイスを割り当てないときは「Disabled」を選択してください。

- ・ 1st FLOPPY DRIVE : 標準搭載のフロッピーディスクドライブです。

POINT

- ▶ ドライブの取り付けや取り外しなどでドライブの構成が変わると、本設定が自動的に変更される場合があります。ドライブの取り付けや取り外しを行った場合は、本設定が正しく設定されているかどうかを確認されることをお勧めします。

□ CD/DVD Drives

CD-ROM、DVD、CD-R/WなどのCD-ROM互換ドライブとして扱うデバイスの一覧です。

【↑】【↓】キーを使って優先順位を選択し、【+】【-】キーでデバイスを選択してください。また、各優先順位にカーソルに合わせて【Enter】キーを押すと、デバイスの一覧が表示されます。【↑】【↓】キーを使って、デバイスのカテゴリを選択してください。優先順位にデバイスを割り当てないときは「Disabled」を選択してください。
なお、デバイスが内蔵 ATA/IDE コントローラに接続されている場合は、デバイス名の先頭に、その接続先を示す PM(プライマリマスター)や PS(プライマリスレーブ)などが表示されます。

POINT

- ▶ ドライブが接続されていない場合、本項目は表示されません。
- ▶ ドライブの取り付けや取り外しなどでドライブの構成が変わると、本設定が自動的に変更される場合があります。ドライブの取り付け／取り外しを行った場合は、本設定が正しく設定されているかどうかを確認されることをお勧めします。

Exit メニュー

Exit メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

■ 設定項目の詳細

□ Exit Saving Changes

設定した内容を CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了するときに選びます。この項目にカーソルをあわせて【Enter】キーを押すと、「Save configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。「OK」を選択し、【Enter】キーを押してください。

□ Exit Discarding Changes

設定した内容を CMOS RAM に保存しないで BIOS セットアップを終了するときに選びます。この項目にカーソルをあわせて【Enter】キーを押すと、「Discard changes and exit setup now?」というメッセージが表示されます。「OK」を選択し、【Enter】キーを押してください。

□ Load Optimal Defaults

すべての設定項目を標準設定値にするときに選びます。この項目にカーソルをあわせて【Enter】キーを押すと、「Load Optimal Defaults?」というメッセージが表示されます。「OK」を選択し、【Enter】キーを押してください。

□ Discard Changes

すべての設定項目について、変更した設定を取り消すときに選びます。CMOS RAM から変更前の値を読み込みます。この項目にカーソルをあわせて【Enter】キーを押すと、「Discard Changes?」というメッセージが表示されます。「OK」を選択し、【Enter】キーを押してください。

4 BIOS のパスワード機能を使う

本ワークステーションのデータを守るためにパスワード機能を説明します。

本ワークステーションは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定できます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本ワークステーションを使えなくなります。

パスワードの種類

本ワークステーションで設定できるパスワードは次の3つです。

入力するパスワードにより、本ワークステーション操作の権限が区別されます。

● Supervisor Password（管理者用パスワード）

特定の人だけが BIOS セットアップを起動できるようにするためのパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

● User Password（ユーザー用パスワード）

特定の人だけが BIOS セットアップや OS を起動できるようにするためのパスワードです。「Supervisor Password」が設定されている場合に設定できます。

ユーザー用パスワードで BIOS セットアップを起動した場合、「Security」 - 「User Access Level」の設定によっては、設定できる項目が制限されます。

POINT

- ▶ ユーザー用パスワードが設定されている場合、OSの起動時にパスワードを要求されたときは、管理者用パスワードを入力しても OS を起動できます。

● HDD Password（ハードディスクパスワード）

特定の人だけがハードディスクにインストールされた OS を起動したり、ファイルの読み書きができるようにするためのパスワードです。「Supervisor Password」が設定されている場合に設定できます。

パスワードを忘れるとき

管理者用パスワードを忘れるとき、BIOS セットアップを管理者権限で起動できなくなります。そのため、ワークステーションを起動できなくなったり、BIOS セットアップのほとんどの項目で設定値を変更できなくなったりします。

また、ハードディスクセキュリティ機能が有効の場合、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクのセキュリティ機能を無効にできなくなります。

この場合は、修理（有償）が必要となりますので、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。無償修理期間中でも有償となります。

○ 重要

- ▶ 修理を行うと、ハードディスク内のデータは初期化されるため復旧できません。データのバックアップができる場合は、必ず修理の前にバックアップしてください。
ただし、起動時のパスワードを設定している場合、管理者用とユーザー用のパスワードを両方とも忘れるとき、データのバックアップはできません。

パスワードを設定する

POINT

- ▶ ユーザー用パスワードやハードディスクパスワードを設定する前に、管理者用パスワードを設定してください。

■ 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

- 1 「Security」メニューで「Set Supervisor Password」、または「Set User Password」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。
次のパスワード入力用のウィンドウが表示されます。

Enter New Password

POINT

- ▶ 「Set Supervisor Password」が設定されていないと、「Set User Password」は設定できません。

- 2 8桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。

- 3 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

次のパスワード確認用のウィンドウが表示され、パスワードの再入力を求められます。

Confirm New Password

- 4 手順2で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

「Password Installed」と書かれたウィンドウが表示されます。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「Password do not match!」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順1からやり直してください。

- 5 【Enter】キーを押します。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

- 6 BIOS セットアップを終了します。

「BIOS セットアップを終了する」(→P.71)

POINT

- ▶ 設定したパスワードは、忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

■ ハードディスクパスワードを設定する

- 1** 「Advanced」 – 「Drive Configuration」でパスワードを設定するハードディスクドライブを選択し、「Set HDD Password」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。

次のパスワード入力用のウィンドウが表示されます。

Enter New Password

POINT

- ▶ 「Set Supervisor Password」が設定されていないと、「Set HDD Password」は設定できません。

- 2** 8桁までのパスワードを入力します。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。

入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。

- 3** パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

次のパスワード確認用のウィンドウが表示され、パスワードの再入力を求められます。

Confirm New Password

- 4** 手順2で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。

「Password installed」と書かれたウィンドウが表示されます。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「Password do not match!」と書かれたウィンドウが表示されます。【Enter】キーを押して、手順1からやり直してください。

- 5** BIOS セットアップを終了します。

「BIOS セットアップを終了する」(→ P.71)

POINT

- ▶ 設定したパスワードは、忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

■ パスワード設定後のワークステーションの起動

□ 管理者用パスワード／ユーザー用パスワード設定後

- 管理者用パスワードを設定すると、BIOS セットアップを始めるときに、パスワード入力用のウィンドウが表示されます。パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。
- ユーザー用パスワードを設定すると、BIOS セットアップの起動時と OS の起動時にパスワードの入力用のウィンドウが表示されます。パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ▶ パスワード入力の際に、誤ったパスワードを3回入力すると、ビープ音が鳴り、「Password check failed Fatal Error...System halted」と表示され、本ワークステーションはキーボードからの入力に反応しなくなります。

この場合は、本ワークステーションの電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、10秒以上待ってから電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

□ ハードディスクパスワード設定後

- ハードディスクパスワードを設定すると、本ワークステーション起動時にハードディスクパスワードの入力用ウィンドウが表示されます。パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

POINT

- ▶ ハードディスクパスワードと、OSを起動するために入力したパスワード（ユーザー用パスワードまたは管理者パスワード）に同じパスワードが設定されている場合は、ハードディスクパスワードを入力する画面は表示されません。

異なるパスワードを設定している場合のみ、ハードディスクパスワードの入力を要求されます。

- ▶ ハードディスクパスワードの入力時に誤ったパスワードを3回入力すると、ビープ音が鳴り、「Password check failed Fatal Error...System halted」と表示され、本ワークステーションはキーボードからの入力に反応しなくなります。

この場合、本ワークステーションの電源ボタンを4秒以上押して電源を切り、10秒以上待ってから電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

- ▶ ハードディスクパスワードを設定し、セキュリティ機能が有効になっているハードディスクは、本ワークステーションの起動時に必ずハードディスクのパスワードを入力して、すべてロックを解除してください。

ロックの解除されていないハードディスクがあると、本ワークステーションは正常に動作しません。

- ▶ ハードディスクパスワードを設定し、セキュリティ機能が有効になっているハードディスクは、本ワークステーション以外ではご使用になれません。

パスワードを変更／削除する**■ パスワードを変更する**

- パスワードを変更するには、「Set Supervisor Password」、「Set User Password」、または「Set HDD Password」の項目にカーソルを合わせて現在のパスワードを入力後、新しいパスワードと確認用のパスワードを入力してください。

■ パスワードを削除する

- 管理者用パスワードやユーザー用パスワードを削除するには、「Set Supervisor Password」、「Set User Password」の項目で現在のパスワードを入力後、新しいパスワードを入力しないで【Enter】キーを押してください。
- ユーザー用パスワードは、「Clear User Password」の項目でも削除できます。「Clear User Password」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すとメッセージが表示されるので、「OK」を選択して【Enter】キーを押してください。
- ハードディスクパスワードを削除するには、「Set HDD Password」の項目で、新しいパスワードを入力しないで【Enter】キーを押してください。

第 6 章

技術情報

本ワークステーションの仕様などを記載しています。

1 仕様一覧	94
2 コネクタ仕様	98

1 仕様一覧

本体仕様

製品名称		CELSIUS J330
CPU 注1		Intel® Pentium® 4 プロセッサ 520 (2.80 GHz) / 540 (3.20 GHz)
キヤッシュメモリ		1 次 : 16KB データ、2 次 : 1MB (CPU 内蔵)
チップセット		Intel® 925X Express Chipset
システム・バス		800MHz
メインメモリ		標準 256MB (256MB × 1 DDR2 SDRAM /PC2-3200) ECC あり、最大 2GB
メモリスロット		× 2 (空きスロット × 1 注2)
フロッピーディスクドライブ		3.5 インチ × 1 (3 モード対応)
ハードディスクドライブ		標準 80GB (Ultra ATA/100、2MB cache、7200rpm) 注3
CD ドライブ注4		CD-ROM 読出 48 倍速
オーディオ機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵 High Definition Audio バスコントローラ + High Definition Audio コーデック
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数 最大 96kHz、24 ビット (再生時) 注5、 サンプリング周波数 最大 96kHz、20 ビット (録音時) 注5、 同時録音再生機能
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート
通信機能	LAN	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T 準拠、Wake up on LAN 対応注6
インターフェース	シリアル	非同期 RS-232C 準拠 D-SUB9 ピン × 2 (16550A 互換)
	パラレル	セントロニクス準拠 ECP/EPP 対応 D-SUB25 ピン × 1
	キーボード／マウス	PS/2 準拠 Mini-DIN 6 ピン (キーボード用 × 1、マウス用 × 1)
	USB 注7	USB2.0 準拠 × 8 (前面 × 2、背面 × 4、内部 × 2) 注8
	IEEE1394 注9	4 ピン × 1 (S400)
	LAN	RJ-45 × 1
	オーディオ	マイク : φ3.5mm モノラル・ミニジャック (前面 × 1) (入力 : 100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 5kΩ 以上 (DC) 2kΩ 以上)、 ヘッドホン : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (前面 × 1) (出力 : 1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω)、 ラインイン : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (背面 × 1)、 ラインアウト : φ3.5mm ステレオ・ミニジャック (背面 × 1)
障害監視機能 (POST 時)		カバーセンサー、ファン停止、電源電圧
拡張スロット数		PCI Express x16 Graphics × 1 32bit/33MHz PCI (Low Profile 対応) (Rev.2.3 準拠) (ハーフ : 176mm) × 1
ファイルベイ数		× 2 前面 : 5 インチファイルベイ × 1 (CD-ROM 搭載済) 内部 : 3.5 インチファイルベイ × 1 (ハードディスクドライブ搭載済)
電源／周波数		AC100V ± 10%、50/60Hz + 2% - 4%
消費電力注10	電源 OFF 時注11	2.1W 以下
	動作時	通常約 103W 最大約 230W スタンバイ時約 3W 注12
定格電流	動作時	最大 7A (アウトレット最大 3A を含む)
外形寸法		縦置きの場合 W 99 × D 367 × H 357 mm W 189 × D 367 × H 371 mm (フット装着時)
		横置きの場合 W 357 × D 367 × H 99 mm W 447 × D 367 × H 113 mm (フット装着時)
質量		約 9.3kg
盗難防止用ロック		あり

製品名称	CELSIUS J330
温湿度条件	温度 10 ~ 35 °C / 湿度 20 ~ 80% RH (動作時)、 温度 -10 ~ 60 °C / 湿度 20 ~ 80% RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)
プレインストール OS	Windows XP Professional モデル : Windows XP Professional ^{注13} (DirectX 9.0b 対応)、 Windows XP Professional (ダウングレード代行サービス付) モデル / Windows 2000 DSP モデル : Windows 2000 Professional ^{注14} (DirectX 9.0b 対応)

注1 : ハイパー・スレッディング・テクノロジ機能は、Windows XP モデルで Windows XP Service Pack1a をインストールした場合のみお使いになれます。他の OS ではハイパー・スレッディング・テクノロジ機能はサポートしていません。

なお、Windows XP モデルには、あらかじめ Windows XP Service Pack1a がインストールされています。

注2 : カスタムメイドの選択によっては、空きスロットが無い場合もあります。

注3 : カスタムメイドでハードディスクを選択している場合、160GB (Ultra ATA/100、8MB cache、7200rpm) です。

・本書に記載のディスク容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算によるものです。1MB=1024²byte、1GB=1024³byte 換算で Windows 上に表示される実際の容量は、本書に記載のディスク容量より少くなります。

注4 : カスタムメイドの選択によって、次のドライブが搭載されていることがあります。なお、各数値は仕様上の最大値であり、使用メディアや動作環境によって異なる場合があります。

DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ (バッファアンダーラン防止機能あり)	CD-ROM 読出 : 最大 40 倍速、CD-R 読出 : 最大 40 倍速、 CD-R 書込 : 最大 32 倍速、CD-RW 読出 : 最大 24 倍速、 CD-RW 書込／書換 : 最大 10 倍速、DVD-RAM 読出 : 最大 2 倍速、 DVD-R 読出 : 最大 4.8 倍速、DVD-RW 読出 : 最大 4.8 倍速、 DVD-ROM 読出 : 最大 12 倍速、DVD-Video 読出 : 最大 4.8 倍速
スーパーマルチ ドライブ (バッファアンダーラン防止機能あり)	CD-ROM 読出 : 最大 32 倍速、CD-R 書込 : 最大 24 倍速、 CD-RW 書込／書換 : 最大 10 倍速、 DVD-RAM 読出／書換 : 最大 3 倍速、DVD-R 読出 : 最大 8 倍速、 DVD-R 書込 : 最大 8 倍速、DVD-RW 読出 : 最大 8 倍速、 DVD-RW 書換 : 最大 4 倍速、DVD-ROM 読出 : 最大 12 倍速、 DVD-Video 読出 : 最大 8 倍速、DVD+R 読出／書込 : 最大 8 倍速、 DVD+RW 読出 : 最大 8 倍速、DVD+RW 書込／書換 : 最大 4 倍速

注5 : 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。

注6 : 本ワークステーションには 1000BASE-T の LAN 機能が搭載されています。

・本ワークステーションの LAN 機能は、100BASE-TX の次期規格として規定される 1000BASE-T に対応し、1Gbps (1000Mbps) の高速なデータ通信をサポートします。

また、従来の 100BASE-TX、10BASE-T もサポートしているため、通信速度の自動認識を行い、既存のローカル・エリア・ネットワーク (LAN) にそのまま接続することができます。

・本ワークステーションでは、ACPI モード (ご購入時の設定) のときにスタンバイと休止状態からの Wakeup on LAN 機能がお使いになれます。

注7 : すべての USB 対応周辺機器について動作保証するものではありません。

・USB1.1 準拠の周辺機器を接続している場合、USB1.1 の仕様でお使いになれます。

注8 : カスタムメイドでスマートカードリーダ / ライタを選択した場合、内部の USB インターフェースを 1 つ使用します。

注9 : すべての IEEE1394 対応周辺機器について動作保証するものではありません。

注10 : ディスプレイの電源をアウトレットから供給しない場合の電力値です。

注11 : 電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、メインスイッチを「O」側に切り替えるか、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注12 : ご使用になる機器構成により値は変動します。

注13 : 出荷時は、Service Pack1a が適用されています。

注14 : 出荷時は、Service Pack4 が適用されています。

POINT

- ▶ 本ワークステーションの仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

省エネ法に基づくエネルギー消費効率

CPU	Pentium® 4 プロセッサ 520 (2.80 GHz)	Pentium® 4 プロセッサ 540 (3.20 GHz)
省エネ法に基づく エネルギー消費効率 〔単位:W/MTOPS〕(区分:P)	Windows XP モデル 0.001650	0.001360
	Windows XP Professional (ダウングレード代行 サービス付) モデル/ Windows 2000 DSP モデル 0.001635	0.001347

注: エネルギー消費効率とは省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

LAN 機能

LAN コントローラ	Broadcom BCM5751
送受信バッファ用 RAM	送受信 各 40kbyte
外部インターフェース	ISO8802-3 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
伝送媒体	ツイストペアケーブル ^{注1} (1Gbps : カテゴリ 5E 以上、100Mbps : カテゴリ 5、10Mbps : カテゴリ 3 ~ 5)
伝送方式	ベースバンド
アクセス方式	CSMA/CD
データ転送速度	1Gbps、100Mbps、10Mbps
配線形態	スター型
セグメント最大長	100m
最大ノード数/セグメント	ハブユニット ^{注2} による

注1 : ケーブルは、必ずお使いのネットワーク・スピードに対応したデータグレードのケーブルをお使いください。データグレードの低いケーブルを使うと、データ紛失が発生します。

注2 : ハブユニットとは、1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T のコンセントレータです。

POINT

- ▶ 本ワークステーション標準搭載の LAN はネットワークのスピードに自動で対応します。
ハブユニットの変更などでネットワークのスピードが変更される場合、スピードに対応した適切なデータグレードのケーブルを必ずお使いください。

表示機能

■ 標準モデル

グラフィックスアクセラレータ	RADEON X300 SE
ビデオ RAM	64MB
解像度／発色数	プライマリ：最大 2048 × 1536 ドット、最大 1677 万色（アナログディスプレイ接続時） プライマリ：最大 1600 × 1200 ドット、最大 1677 万色（デジタルディスプレイ接続時） セカンダリ：最大 1600 × 1200 ドット、最大 1677 万色（アナログディスプレイ接続時）
インターフェース	デジタルディスプレイ（DVI-I 準拠）24 ピン（コピープロテクション非対応）× 1
DirectX	DirectX9.0
OpenGL	OpenGL 1.5

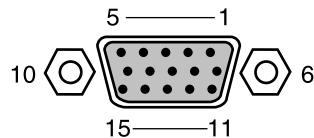
■ カスタムメイドで FireGL V3200 を選択している場合

グラフィックスアクセラレータ	FireGL V3200
ビデオ RAM	128MB
解像度／発色数	最大 2048 × 1536 ドット、最大 1677 万色（アナログディスプレイ接続時） 最大 1600 × 1200 ドット、最大 1677 万色（デジタルディスプレイ接続時）
インターフェース	デジタルディスプレイ（DVI-I 準拠）24 ピン（コピープロテクション非対応）× 2
DirectX	DirectX9.0
OpenGL	OpenGL 1.5

2 コネクタ仕様

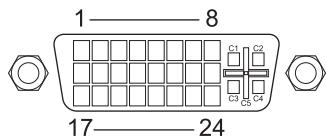
各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

■ アナログ RGB コネクタ



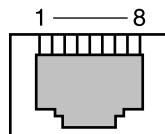
ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5～8	GND	—	グランド
9	+5V	—	+5V
10	GND	—	グランド
11	NC	—	未接続
12	ID1 (SDA)	入出力	DDC データ
13	H SYNC	出力	水平同期信号
14	V SYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

■ DVI-I コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TX2-	出力	データチャンネル2-
2	TX2+	出力	データチャンネル2+
3	TX2/4 Shield	—	グランド
4	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
5	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
6	DDC Clock	入出力	DDC クロック
7	DDC Data	入出力	DDC データ
8	Analog V Sync	出力	アナログ垂直同期信号
9	TX1-	出力	データチャンネル1-
10	TX1+	出力	データチャンネル1+
11	TX1/3 Shield	—	グランド
12	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
13	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
14	+5V	—	+5V
15	GND	—	グランド
16	Hot Plug Detect	入力	ホットプラグ
17	TX0-	出力	データチャンネル0-
18	TX0+	出力	データチャンネル0+
19	TX0/5 Shield	—	グランド
20	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
21	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
22	TXC Shield	—	グランド
23	TXC+	出力	データクロック +
24	TXC-	出力	データクロック -
C1	Analog Red	出力	アナログレッド出力
C2	Analog Green	出力	アナロググリーン出力
C3	Analog Blue	出力	アナログブルー出力
C4	Analog H Sync	出力	アナログ水平同期信号
C5	Analog Ground	—	アナロググランド

■ LAN コネクタ (1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T)



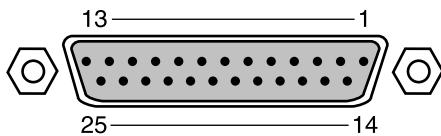
□ 1000BASE-T

ピン番号	信号名	方向	説明
1	TRD0+	入出力	送受信データ 0+
2	TRD0-	入出力	送受信データ 0-
3	TRD1+	入出力	送受信データ 1+
4	TRD2+	入出力	送受信データ 2+
5	TRD2-	入出力	送受信データ 2-
6	TRD1-	入出力	送受信データ 1-
7	TRD3+	入出力	送受信データ 3+
8	TRD3-	入出力	送受信データ 3-

□ 100BASE-TX/10BASE-T

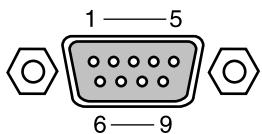
ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD+	出力	送信データ +
2	TD-	出力	送信データ -
3	RD+	入力	受信データ +
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	RD-	入力	受信データ -
7	NC	—	未接続
8	NC	—	未接続

■ パラレルコネクタ



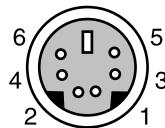
ピン番号	信号名	方向	説明
1	* STROBE	入出力	ストローブ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	* ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	* AUTOFD	出力	自動送り
15	* ERROR	入力	エラー
16	* INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18 ~ 25	GND	—	グランド

■ シリアルコネクタ



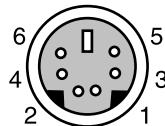
ピン番号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	—	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

■ マウスコネクタ



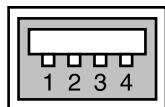
ピン番号	信号名	方向	説明
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グランド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

■ キーボードコネクタ



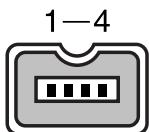
ピン番号	信号名	方向	説明
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グランド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	Reserved	—	本ワークステーション固有の信号が割り付けられています

■ USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	-データ信号
3	+DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グランド

■ IEEE1394 コネクタ



ピン番号	信号名	方向	内容
1	TPB-	入出力	- データ信号
2	TPB+	入出力	+ データ信号
3	TPA-	入出力	- データ信号
4	TPA+	入出力	+ データ信号

Memo

索引

記号

- 3.5インチファイルベイ 15
- 5インチファイルベイ 15

A

- Advanced メニュー 74

B

BIOS

- セットアップ 68
- セットアップの操作のしかた 69
- セットアップを終了する 71
- のパスワード 89
- Boot メニュー 85

C

- CD／DVD 33
- CD IN コネクタ 16
- CD-ROM ドライブ 12
- CD アクセスランプ 12
- CD 取り出しボタン 12
- CPU 16

D

- DIMM スロット 16
- DVI-I コネクタ 14, 99

E

- Exit メニュー 88

H

- HDD Password 89

I

- IEEE1394 コネクタ 103
- IEEE1394 端子 14

L

LAN

- 機能 96
- コネクタ 14, 100

M

- Main メニュー 72

P

- Power メニュー 83

S

- Security メニュー 80
- Supervisor Password 89

U

- USB コネクタ 11, 14, 102
- User Password 89

あ行

- アウトレット 14
- アナログ RGB コネクタ 98
- インレット 14

か行

- 外部温度センサー (Ext. Sensor) 16
- 鍵穴 11
- 拡張カード 62
- 拡張カードスロット 13, 15, 16
- 管理者用パスワード 89
- キーボード 31
- コネクタ 14, 102
- のお手入れ 47
- コネクタ仕様 98

さ行

- 周辺機器 52
- 仕様 94
- 省エネ法に基づくエネルギー
- 消費効率 96
- シリアルコネクタ 14, 101

スマートカードベイ	11	メモリ	55
セキュリティ	17		
施錠	49		
た行			
通風孔	11		
ディスクアクセスランプ	11		
ディスク取り出し穴	12		
電源			
一ボタン	11		
一ユニット	15		
一ランプ	11		
盜難防止用ロック	13		
な行			
内蔵バッテリ	16		
内部温度センサー (Int. Sensor)	16		
南京錠用鍵穴	13		
は行			
ハードディスク	45		
一パスワード	89		
パスワード (BIOS)			
一を削除する	92		
一を設定する	90		
一を変更する	92		
一を忘れる	89		
パラレル ATA コネクタ	16		
パラレルコネクタ	14, 101		
表示機能	97		
フット	12		
フロッピーコネクタ	16		
フロッピーディスク	43		
一アクセスランプ	11		
一ドライブ	11		
一ドライブのお手入れ	48		
一取り出しボタン	11		
ヘッドホンアウト端子	11		
本体カバー	54		
本体仕様	94		
ま行			
マイク端子	11		
マウス	28		
一コネクタ	14, 102		
一のお手入れ	46		
メインスイッチ	14		
メインボード	16		
や行			
ユーザー用パスワード	89		
ら行			
ラインアウト端子	14		
ラインイン端子	14		
わ行			
ワークステーション本体			
一前面	10		
一内部	15		
一のお手入れ	46		
一背面	13		

CELSIUS J330

ハードウェアガイド
B6FH-2561-01-00

発行日 2004年8月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。